

平成 2 5 年度

北栄町教育委員会の事務に関する外部評価報告書

北栄町教育行政評価委員会

は じ め に

この報告書は、北栄町教育行政点検評価委員会による平成25年度北栄町教育委員会の事務に関する点検及び評価である。この評価及び点検は、平成19年に改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の第27条の2項に基づき北栄町で平成21年度から行われている。

北栄町は平成17年10月に二つの町が合併し、平成19年7月には北栄町教育委員会が「北栄町教育ビジョン～子どもから高齢者まで 学びを通して夢を実現する」を制定した。

上記の法律改正に基づき、まず平成20年度以降には北栄町教育委員会内部による点検及び評価が実施された。これは町のビジョンの二つの基本目標である、「豊かな自然と優しい地域の中で、子どもがすくすくと育つ環境づくり」と「町民みんなが、人権を尊重して仲よく暮らせ、楽しく学び、夢が実現できる環境づくり」がそれぞれ4つと2つの施策の柱から構成されており、平成25年度については、その6つの施策の柱「1. 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭」、「2. 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども」、「3. 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子ども」、「4. 子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育」、「5. 人権を尊重する気運が社会に根付き、豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町」、「6. 学習やスポーツに積極的に参加し、文化や芸術に親しみ、心身ともに健康で、自らの夢を実現させる人があふれる町」を推進するための事業について、それぞれA、B、C、D、Eの5段階で評価された。ほとんどの事業計画はCとされ、全体としても指標通り達成できたと評価された。

平成20年度の内部評価以降、北栄町教育行政点検評価委員会による外部評価を平成21年度の3回に続き、平成22年度に3回、平成23年度に3回、平成24年度以降は4回実施した。当委員会では、平成25年度に評価対象事業として、平成23年度以降は全42事業の評価を行った。

評価基準は、平成21年度と変わらず次の5つ「事業が継続的なものであったか」、「対象をできるだけ広くとらえていたか」、「参加者は事業に満足できたか」、「事業実施の予算的裏付けがあったか」、「当該事業がビジョン実現に貢献したか」とした。

尺度については、平成21年度では内部評価と同じ3段階（A＝目標以上に達成できた、B＝目標通り達成できた、C＝ほとんど、全く達成できない）とした。しかし、平成22年度はさらに細かく評価するために5段階（A＝目標を大幅に達成できた、B＝目標をい

くらか超えて達成できた、C＝目標どおり達成できた、D＝目標を一部達成できなかった、E＝ほぼ全く達成できなかった）に変更した。平成23年度も前年度と同様とした。

これらに基づき全42の個別の事業を評価した。「ブックスタート事業」、「同日公開参観日」、「サマースクール」、「レインボープラン」、「少人数学級の推進」、「特別支援教育補佐員の配置」及び「社会教育講演会事業」の7事業（前年度より5事業減少）は総合評価でBとし、Dは0事業（前年度より1事業減）とし、E評価の事業は0（前年度も0事業）とした。他の35事業の総合評価はCとした。

評価点検のプロセスで、委員からは様々な質問や意見、具体的な改善案も提案され、これらに対して詳細な回答等もされた。この度、全事業が4度目の外部評価となった。今後は、個々の事業単位のみならず、全事業を通して町村合併後9年経過してより一層の地域間の融合と各事業の年度内の逐次改善活動の充実が必要と思われる。

北栄町教育行政評価委員会	会長	野津	伸治
	委員	山田	真由美
	委員	盛山	由紀子

子どもから高齢者まで 学びを通して夢を実現する

基本的な考え方

豊かな心と自ら考え行動する力を持ち、
自己実現ができる『人』

めざす人間像（町民像として）

- ・町の自然や歴史、文化、人に愛着と誇りを持つ
- ・命を尊重し、優しさや思いやりなど豊かな心を持つ
- ・生涯を通して、進んで学習し、自己実現を図る
- ・自らの食や健康に気をつけ、体力の増進や精神の高揚を図る

基本的な進め方

豊かな自然と優しい地域の中で、子どもがすくすくと育つ環境づくり

町民みんなが、人権を尊重して仲よく暮らせ、楽しく学び、
夢が実現できる環境づくり

乳幼児が安心して、
すくすく育つ家庭や地域

- ・就学前教育の充実と支援のためのシステムづくりに努めるとともに、親と子どもが共に育つ学習機会を充実します。
- ・子どもの人権を尊重し、子どもの安心・安全を保障する取り組みを推進します。

地域での活動や地域人材の活用で、
町の自然や歴史、文化、人を学び、
町に愛着を持つ子ども

- ・美しい自然の中で、子どもがのびのびと活動したり、地域の中で大人と共に学んだりすることを通して、自然や地域の文化、人の素晴らしさにふれあうことのできる環境づくりに努め、地域の教育力を高めます。

仲よく遊び、学び、
他人の気持ちを思いやる
心根を持つ子ども

- ・所・園・小・中の連携のもと、異年齢間の交流や活動を通して、子どもの仲間づくりや育ちを支援し、学校での人権教育を通して子どもが命の大切さを学びます。
- ・家庭や地域の中では、子どもの健全育成を推進する教育力の充実を図り、基本的な生き方を身につけさせるとともに、一人ひとりの存在を認め合いながら、自立する子どもの育成をめざします。

子どもが意欲を持っていきいき学び、
基礎・基本を身につける学校教育

- 子どもの目が輝き、笑顔で学習や活動に取り組み、学ぶことの大切さや喜びを味わいながら基礎的・基本的な内容を身につけ、自ら学び・考え・行動する力を育成する学校教育を進めます。

人権を尊重する気風が社会に根付き、
豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町

- 「北栄町人権を尊重するまちづくり条例」に基づき、人権教育の取り組みを充実し、町民一人ひとりの基本的人権が尊重され、様々な活動や交流等をする中で人間性や社会性を磨き、幸せに暮らせる環境づくりに努めます。

学習やスポーツに積極的に参加し、文化や芸術に親しみ、
心身ともに健康で、自らの夢を実現させる人があふれる町

- ・生涯学習の推進体制を充実し、スポーツクラブや文化活動をする団体等の育成を図り、町民が生涯を通して楽しく学べ、スポーツや文化に親しむことができる環境づくりを推進します。また、町民一人ひとりが自らの健康管理をするため、食育や体力づくりを進めます。
- ・自らの夢を実現しようとする人を支援し、町民が穏々として暮らせる安心・安全な町をめざします。

平成25年度
重点施策

主要事業

就学前教育・教育の充実と保護者の
学習機会の提供

- 【教育総務課】
 - ・認定こども園・保育所における保育・教育の充実
 - ・子育て支援センター、放課後児童クラブなどによる支援
 - ・計画訪問による指導助言
- 【生涯学習課 文化・スポーツ推進室】
 - ・子育て学習講座の実施(こども園・保育所)

- 【図書館】
 - ・ブックスタート事業
 - ・おはなし会の開催(館内)
 - ・出前お話会の実施(子ども園・保育所・福祉施設など)

地域の素材を活かし、体験活動などを推進し
子どもの育ちを支援する取り組み

- 【教育総務課】
 - ・職場体験学習(ワクワク北栄・ワクワク大栄)
 - ・ゲストティーチャーの招聘(地域人材の活用)
 - ・転入教職員の町内めぐり
 - ・自治会等地域での学習活動支援事業
 - ・運動部活動推進事業

- 【生涯学習課 文化・スポーツ推進室】
 - ・青少年劇場巡回公演の実施
 - ・アートスタート事業の活動支援・古代体験工房の実施
 - ・町民音楽祭(小中学生の参加)
 - ・中部地区少年少女のつどい
 - ・青少年育成北栄町民会議交付金事業(青少年街頭指導の実施・あいさつ運動の推進)
 - ・家庭教育12か条の推進
 - ・630運動の推進
 - ・地域における青少年活動調査(新規)
 - ・子ども会リーダーの育成(新規)
 - ・人権学習会の事業
- 【中央公民館】
 - ・青少年地域活動事業(長期休業中の体験活動)
- 【中央公民館 大栄分館】
 - ・放課後子ども教室(子どもほくえい塾)の実施

指導方法の工夫・改善の推進と基礎学力
の定着及び自ら学ぶ力の育成

- 【教育総務課】
 - ・少人数学級の推進・児童生徒学習交流事業(湖南省いじめサミットへの参加)
 - ・保育園小中の連携・町学校教育研究協議会・学びと指導の創造事業(北条小中)
 - ・特別支援教育の充実・特別支援教育補佐員の配置
 - ・レインボープラン(大栄小中・中央育英高校)・ドリームXI(北条小中)
 - ・同日公開参観日の実施
 - ・中学校での心の教室相談事業の実施
 - ・いじめ対策のためのQ-U実施・いじめに関する調査の実施
 - ・司書補佐員を配置・ICT教育活動支援員の配置・英語指導助手(ALT)の配置
 - ・「家庭学習の手引き」の作成・配布
 - ・図書館検索システムの活用

- 【教育総務課】
 - ・外国語教育事業の実施(小1~4年)
 - ・教育力向上事業
 - ・NRT・CRT標準学力検査の実施
 - ・サマースクール(夏休み中の勉強会)
 - ・問題データベースの活用
 - ・学力向上授業研究の実施(講師招聘)
 - ・大栄小「まなびの教室」の設置

実践に活きる研修の充実と
くらしやすい地域づくり

- 【教育総務課】
 - ・保育所、こども園、小・中学校における人権教育の推進
- 【生涯学習課 人権教育推進室】
 - ・人権教育講演会等啓発事業の開催(年2回)
 - ・人権の花運動の実施
 - ・人権を学ぶ会の開催
 - ・人権教育事業所研修の実施
 - ・人権教育推進指導員、地区推進員等の研修
 - ・隣保館における人権教育の実施

届ける講座の推進と自ら取り組む
スポーツ・文化活動

- 【生涯学習課 文化・スポーツ推進室】
 - ・民俗芸能の伝承事業・歴史文化探訪ウォークの開催・町民音楽祭の開催
 - ・歴史民俗資料館企画展示事業・文化財保護対策事業
 - ・巡回展示館の開催
 - ・国史跡由良台築山150年事業(フォトコンテスト・幕末ウォーク等)新規
 - ・すいか・ながいも健康マラソン大会の実施(第26回大会)
 - ・ウォーキングのまち北栄町推進事業
 - ・訪問型ニュースポーツ体験事業(おじゃまします!スポーツ推進委員です)
 - ・指定管理者北栄スポーツクラブによる各種スポーツ大会の実施及び施設管理(町民運動会、町駅伝、元旦マラソン&ウォーキング大会を含む)
 - ・東伯郡民体育大会主会場地に伴う取り組み強化(練習環境整備等)新規
 - ・スポーツ県外派遣費の補助
 - ・町スポーツ表彰の実施
 - ・社会教育関係団体活動費補助事業
 - ・社会教育講演会の開催(宝くじ文化講演)
 - ・生涯学習出前講座提供事業

- 【中央公民館】
 - ・公民館講座の充実(民芸実習館活用講座・シニアクラブ・成人対象講座・青少年対象講座・自治会生涯学習部長研修など)
 - ・北栄文芸の編集発行・美術展の開催・公民館まつりの開催
 - ・北栄ゆら由良川くぐりの実施
 - ・文化団体連絡協議会の活動支援
 - ・指定管理者による大栄分館の管理及び各種事業の実施

- 【図書館】
 - ・図書館開館20周年記念事業(コンサート・講演等)新規
 - ・図書館まつりの開催
 - ・講座の開催(「源氏物語を読む」「福本和夫を識る」など)
 - ・図書館情報システムの活用

平成25年度北栄町教育行政評価(外部評価)

【総括表】

整理 番号	評価事業名	最終評価	ページ番号
1	家庭の教育力アップ事業	C	6
2	ブックスタート事業	B	7
3	お話し会の開催	C	8
4	学校給食の地産地消の取り組み	C	9
5	小中学校における栄養職員による食育の実施	C	10
6	民間委託(一部業務)への円滑な移行	C	11
7	同日公開参観日	B	12
8	自治会等地域での学習活動支援事業	C	13
9	職場体験学習(ワクワク)	C	14
10	サマースクール(夏休み小学生勉強会)	B	15
11	ゲストティーチャー招聘(地域人材の活用)	C	16
12	歴史探訪ウォークの実施	C	17
13	町学校教育研究協議会	C	18
14	レインボープラン(大栄小・中・中央育英高校)	B	19
15	ドリームプロジェクトX(北条小・中)	C	20
16	中学校での心の教室相談事業	C	21
17	いじめ対策のためのQ-U実施	C	22
18	いじめに関する調査	C	23
19	児童生徒交流事業(滋賀県湖南市との交流)	C	24
20	少人数学級の推進	B	25
21	学びと指導の創造事業(北条小・中)	C	26
22	ICT教育活動支援員の配置	C	27
23	大栄小「まなびの教室」の設置	C	28
24	大栄小「ことばの教室」の設置	C	29
25	特別支援教育補佐員の配置	B	30
26	社会教育講演会事業	B	31
27	社会教育推進事業(生涯学習出前講座提供事業)	C	32
28	町民音楽祭開催	C	33
29	人権の花運動の実施	C	34

整理 番号	評価事業名	最終評価	ページ番号
30	人権教育小地域懇談会の開催	C	35
31	小中学生の人権学習会の開催	C	36
32	人権教育講演会の開催	C	37
33	人権教育事業所研修の実施	C	38
34	人権教育推進指導員、地区推進員等の研修	C	39
35	訪問型ニュースポーツ体験事業	C	40
36	ウォーキングのまち北栄町推進事業	C	41
37	北栄ゆら由良 川くんだり	C	42
38	図書館まつりの開催	C	43
39	開館20周年記念事業(図書館コンサート)の開催	C	44
40	土曜講座	C	45
41	図書館情報システムの活用	C	46
42	ビデオ鑑賞会の開催	C	47

●平成25年度教育行政評価 事業評価シート

外・内部 評価用

		整理番号	1
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	生涯学習課
事業名	家庭の教育力アップ事業		
教育ビジョン	小項目	1 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭や地域	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	3 親と子どもがともに育つ教育の充実	1-4 3-4
事業の目的・概要	【目的】 子ども達が、生きる力の基礎となる基本的生活習慣を身につけ、心身ともにたくましく、健やかに育つことができるよう、保護者等に向けた学習機会を提供する。 【概要】 子育て学習講座の実施 「家庭教育12か条」「630運動」の推進		
事業の効果	【効果】 基本的生活習慣の定着 親子のコミュニケーションを図る		
具体的な取り組み	子育て学習講座の実施(町内こども園・保育所(園)) ・ふりかえりシートの実施 4月を「家庭教育推進月間」とした「家庭教育12か条」「630運動」の啓発(チラシ配布、広報誌、HP、放送) ・告知放送での子どもたちによるあいさつ呼びかけ運動に併せた家庭教育に係る啓発の実施		

【最終評価】

事務局	事業実績	子育て学習講座の実施(町内こども園・保育所(園)) 4月を「家庭教育推進月間」とした「家庭教育12か条」「630運動」の啓発(チラシ配布、広報誌、HP、放送、児童・スポ少等による放送)
	成果・効果	基本的生活習慣の定着(講座、振り返りと目標設定) 親子のコミュニケーションを図る 町全体で「家庭教育12か条」「630運動」を認識(子ども達による告知放送であいさつと併せ実施)
	課題	講座に不参加の保護者への働きかけ
	改善方針	より関心のある講座内容 みんなが参加する雰囲気づくり 不参加者への資料配付と呼びかけ
外部委員	最終評価	【意見等】・家庭学習12か条の朝の告知放送による啓発の取り組みはいい。 ・子育て講座はたとえ参加者が少なくても大切なこと。継続してほしい。時期、実施方法、講師の検討は必要。
	C	

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

●平成25年度教育行政評価 事業評価シート

外・内部 評価用

整理番号	2
担当課名	生涯学習課

【評価事務事業：当初確認事項】

事業名	ブックスタート事業			
教育ビジョン	小項目	1 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭や地域	その他共通ビジョン項目 6-8	
	具体的な目標	3 親と子どもがともに育つ教育の充実		
事業の目的・概要	【目的】 地域に生まれたすべての赤ちゃんとの保護者が、絵本を介してゆつくり心ふれあうひとときをもつきっかけをつくる。 【概要】 町の健康推進課が行っている乳児検診時に、図書館司書と読みきかせボランティアが出向き、ブックスタート事業の趣旨を説明した後、赤ちゃんとその保護者に読みきかせの実際を行う。			
事業の効果	【効果】 ・目標一生後7ヶ月のすべての赤ちゃんに100%この事業が届けられること。これを機に、図書館利用につながる。 ・効果一事業を行うことで、絵本に無関心だったり図書館を利用したことがなかった保護者が図書館に来館され、利用者カードを作って本を借りられるようになった。 また、おはなし会に参加されるようになった。			
具体的な取り組み	生後7ヶ月検診時に、一組一組の赤ちゃんとの保護者に、絵本を開く時間の楽しさを体験してもらいながら、「赤ちゃん、すくすく幸せに育ってね」「地域みんなで子育てを応援していますよ」などのあたたかなメッセージを伝え、絵本を手渡す。また、おはなし会の開催や活動事業なども紹介し、利用促進を図る。その後、読みきかせボランティアによる絵本の読みきかせの実際を行う。保護者と一緒に、赤ちゃんのかわいい反応を見ながら、絵本の楽しさを体験してもらうことが、家庭でもそうした時間をもつきっかけになることを願う。			

【最終評価】

事務局	事業実績	対象児の赤ちゃんとの保護者にブックスタート事業の趣旨説明を行い、ブックスタートバックを手渡した(12月末現在で87組の親子へ)また、絵本の読み聞かせも行った。館内のおはなし会への参加も呼びかけた。
	成果・効果	ブックスタートを機に、図書館へ来館される親子がある。赤ちゃんコーナーやおはなし会を知っていただくきっかけとなっている。
	課題	この事業のフォローアップとして、館内で行っているおはなし会への参加を呼びかけたが、参加が伸びない。
	改善方針	来年度に向けて、子育て支援センターへ出前おはなし会を実施する予定である。また、「年齢別のおすすめ本」のリストも作成していく。
外部評価		最終評価 【意見等】・特になし。
		B

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	3
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	生涯学習課
事業名	お話し会の開催		
教育ビジョン	小項目	1 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭や地域	その他共通ビジョン項目 6-8
	具体的な目標	3 親と子どもがともに育つ教育の充実	
事業の目的・概要	【目的】 小さい頃から絵本に親しみ、お話に集中することで、想像力や豊かな感性が芽生え、安定した心を育むことを目的に実施する。 【概要】 館内－毎週日曜日に開催。畳のコーナーで親子に絵本の読みきかせを行う。 館外－こども園や保育所、小学校に毎月1回読みきかせに出かける。		
事業の効果	【効果】 効果－ブックスタート事業の効果もあり、最近では赤ちゃんを連れた保護者が来館されるようになった。おはなし会後は、保護者が赤ちゃん用の絵本や自分用の本を借りて行かれ、利用促進にもつながっている。		
具体的な取り組み	・館内－図書館司書が、毎週日曜日午前10時30分から、来館者に放送等で声かけをし、おはなし会を開催。 ・児童コーナーの畳のスペースで、絵本の読み聞かせを行う。時間はおよそ30分程度。 ・館外－(大栄地区)大誠こども園、由良こども園、大谷保育所の3箇所に、毎月1回絵本の読み聞かせに出かけていく。 ・(北条地区)読み聞かせボランティア「つくしんぼ」が、毎月1回、北条こども園や北条小学校へ読み聞かせに出かけていく。		

【最終評価】

事務局	事業実績	今年度から毎週日曜日午後10時30分からに変更。赤ちゃんコーナーの畳のスペースで、年齢に合わせておはなし会を開催。また、8月には新企画として「ぬいぐるみのおとまり会」を開催。好評につき、年度末の3月に再度開催予定。
	成果・効果	日時や回数を変更したこと、館内放送や呼びかけ等で、少しずつ参加者が増えつつある。
	課題	特になし。
	改善方針	今後も広報周知を徹底し、より多くの方に参加してもらうよう努力する。
外部評価		最終評価 【意見等】・特になし。 C

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	4
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	学校給食の地産地消の取り組み		
教育ビジョン	小項目	1 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭や地域	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	6 食育の充実	
事業の目的・概要	【目的】 学校給食等への地元農水産物の積極的な利用促進の推進により、子どもたちに郷土の農業、食の重要性に対する理解を深めさせ、ごはんを中心とした日本型食生活の普及を図るとともに、生産者の意欲向上と地産地消の推進を図る。 【概要】 地元生産者団体との地産地消検討会を毎月実施し、野菜や果物、加工品等の供給量について協議を行う。それらを学校給食の献立に生かすことで、地元産の食材を多く使うことができる。		
事業の効果	【効果】 ○地元産の食材を多く取り入れた献立を出すことで、子どもたちに旬や地域の産業について知らせることができる。その結果、自分たちが住んでいる地域の良さを知ることができ、ふるさとを愛する心を育てることができる。 ○食材の提供だけでなく、子どもたちとの交流給食などを行うことによって、食育の推進にもつながる。		
具体的な取り組み	○毎日…給食メッセージ(給食時放送原稿)で地元産食材の紹介 ○毎月…地産地消検討会(JA女性会・センター長・栄養士・調理員) ○学期ごと…学校給食用食材の生産地別使用状況調査報告 ○1月(学校給食週間)…交流給食(JA女性会)		

【最終評価】

事務局	事業実績	・毎日の給食メッセージ(給食時放送原稿)で地元産食材の紹介、毎月の地産地消検討会は順調に実施できた。 ・1月24日～30日の給食週間には地元生産者と小学生との交流給食や、中央公民館での学校給食展では地元生産者団体の作品も展示して、生産者と児童・生徒の距離を縮めることができる。
	成果・効果	地元産の食材を多く取り入れた献立を出すことで、子どもたちに旬や地域の産業について知らせることができる。その結果、自分たちが住んでいる地域の良さを知ることができ、ふるさとを愛する心を育てることができ、「食」の大切さや感謝の気持ちを育めた。1学期は天候の関係で地元産・県内産の利用が減ったが2学期は増えるよう心がけた。
	課題	・地元生産者とも会合を持ち、野菜の規格を改めて共通認識したが、やはり天候に左右されやすい。センターも各園場の見学を計画していたが、時間がなくできなかった。 ・加工品の異物混入があった。地元生産者の高齢化に伴い、町内産加工品の確保が難しくなる。 ・発注ミス等がある。
	改善方針	・地元生産者には露地ものより、安定しているハウス栽培の作物で計画的に耕作してもらうようにする。 ・加工品の保管方法や衛生管理を徹底してもらう。 ・万が一異物混入が発生した場合は、原因解明と今後の改善策を明確にしてもらう。 ・発注ミスがないよう電話のみのやり取りではなくファクシミリを必ず使用する。
外部評価	最終評価	【意見等】・生活がどう変わったかアンケートをしてはどうか。 ・目標達成を評価する尺度を決めてはどうか。
		C

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	5
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	小中学校における栄養職員による食育の実施		
教育ビジョン	小項目	1 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭や地域	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	6 食育の充実	
事業の目的・概要	【目的】 児童生徒に食に関する指導を行うことにより「食に関する知識」「食を選択する力」「望ましい食習慣」を家庭や地域と連携しつつ身に付けさせ、健全な食生活を実践することができる人間を育てることが大きな目的である。 【概要】 学校給食を生きた教材とし、給食を通して「食に関する知識」「食を選択する力」「望ましい食習慣」を身につけさせる。学校との連携をはかり、全体計画を立てて指導を行う。		
事業の効果	【効果】 ○児童生徒が食に対して興味関心を持ち、食に関する正しい知識や選択する力を持つことができる。 ○計画的に指導を行うことで、児童生徒の健康や食に対する興味関心が高まり、残菜を減らすことができる。 ○朝食欠食率の低下につながる		
具体的な取り組み	○食に関する指導の全体計画を作成する ○給食訪問を行い、給食を教材として指導を行う(全クラス) ○学校と連携し、学級活動等で食に関する指導を行う ○試食会において保護者へ食育についての講話を行う ○献立表、給食だよりを通して家庭への食育を推進する		

【最終評価】

事務局	事業実績	給食たよりを毎月発行している。試食会の講和も依頼のあった学校にはすべて実施した。食育の指導を栄養士の所属校(北条小)は全学年実施済。こども園の保護者対象の講演会は実施済で、子どもたちへの食育指導は2月以降に実施する。毎月各学校の給食主任と献立検討会を実施して連携が取れ、学校への周知が徹底できた。
	成果・効果	・児童生徒が食に対して興味関心を持ち、食に関する正しい知識や選択する力を養う。 ・食育指導を行うことで、児童生徒の健康や食に対する興味関心が高まり、残菜を減らすことができた。 ・こども園は保護者に講演会を実施し、園児には2月に食育指導を行う予定である。
	課題	・食育指導にあまり出られなかった。
	改善方針	・各学校で食育指導が実施できるよう年間計画をたてる。できれば1校集中ではなくて、曜日ごとに学校を決めて回るようにして、学校、センターとも「食育指導」を定着させたい。食育指導の後は、残菜が減る傾向があるなど指導の効果もあるので、今年度より回数を増やしたい。
外部評価	最終評価	【意見等】・学校・行政も多忙なのはわかるが、北条中の文化祭終了後、他の事業と一緒に実施するのはいいアイデアである。
	C	

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A =目標を大幅に達成できた	D =目標を一部達成できなかった
B =目標をいくらか超えて達成できた	E =ほぼ全く達成できなかった
C =目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

【評価事務事業：当初確認事項】

		整理番号	6
		担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	民間委託(一部業務)への円滑な移行		
教育ビジョン	小項目	1 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭や地域	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	6 食育の充実	
事業の目的・概要	【目的】・調理業務の委託の目的は、民間企業等の専門的な知識・技術を活用し、柔軟な勤務時間などによる業務効率の向上による経費節減の効果と、調理業務を委託することにより、従来事務職が行っていた、調理職員管理業務(賃金計算、休暇に伴う代替対応など)が削減される事による事務経減で、事務職員、栄養士らが給食センター管理運営業務、食育の推進、アレルギー対応、献立内容の充実、安全・衛生管理の一層の推進を図る。 【概要】・町が献立の作成、食材の購入、調理の指示、調理物の検査を行い、調理作業、配缶作業、洗浄・消毒・保管作業、清掃作業などを民間業者に委託する。		
事業の効果	【効果】◆食育 近年、児童・生徒の食生活においては、偏食、朝食欠食、偏った栄養摂取などによる食生活の乱れ、肥満傾向の増加などが指摘されている。これらの課題を解決するための食育が推進できる。 ◆アレルギー対応、献立内容の充実 学校給食においては、献立内容の充実、地産地消の推進による安全な食材の使用、近年増加傾向、多様化する食物アレルギーのある児童・生徒へのよりきめ細かな対応が推進できる。 ◆安全・衛生管理の徹底 センター長、学校栄養士により安全・衛生管理の徹底により安全で安心な給食の提供が図れる。 ◆給食業務全般のコスト削減・効率的運営 センター全体の管理運営の徹底、給食費徴収の促進が図れる。		
具体的な取り組み	《今後のスケジュール》 5月……町議会全員協議会説明・学校給食会総会説明 6月……6月議会・債務負担行為の計上・北条校区・大栄校区において保護者・PTA説明会開催 7月～8月……業者公募・説明会(業者選定方式の検討 公募型プロポーザル方式) 9月～10月……業者選定・契約 11月～3月……業者準備・業務引継ぎ 4月……委託業務開始		

【最終評価】

事務局	事業実績	平成26年度から実施する調理業務等を民間委託するために公募方式で参加事業者を募る。募集要項を公示。プレゼン・選定委員会を経て、業者を選定し契約書を交わした。現在引継ぎ作業中。
	成果・効果	・食育の充実、アレルギー対応の充実、安全衛生管理の徹底、民間のノウハウを生かした、効率的な経営。 ・地産地消の推進。
	課題	・現地採用者の優先。検収体制の確立。異物混入の事故防止と対応。地元生産者団体の品質向上。 ・余裕のある調理設備管理を実施するために、こども園の稼働日を年間3日くらい休業としたい。
	改善方針	・業者の検収時間を午前中に限定するよう協議する。 ・こども園と協議し理解を得たい。
外部評価	最終評価	【意見等】・懸念事項がマニュアルに盛り込んである。
	C	

※ 評価確認事項

★評価の観点

- | |
|---------------|
| ① 継続・単年 |
| ② 対象者、参加者 |
| ③ 参加者の満足度 |
| ④ 予算措置 |
| ⑤ 教育ビジョンへの貢献度 |

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|---------------------|-------------------|
| A = 目標を大幅に達成できた | D = 目標を一部達成できなかった |
| B = 目標をいくらか超えて達成できた | E = ほぼ全く達成できなかった |
| C = 目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	7
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	同日公開参観日		
教育ビジョン	小項目	1 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭や地域	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	7 地域で育てる教育の充実	
事業の目的・概要	【目的】 町民に、子ども園での生活や遊び、学校での学習場面での様子を知っていただくため。 【概要】 年2回、町内の全保育所・こども園、小学校中学校を1日公開する。誰でも好きな時間に参観することができる。		
事業の効果	【効果】 ○自分の子どもの学習の様子だけでなく、学校全体の施設や子どもちの様子を見ることができる。 ○地域の専門家やゲストティーチャーを迎えての授業、小学校の外国語活動の様子など、子どもたちの様々な学びの様子を見ていただける。		
具体的な取り組み	○広報活動を行い、多くの町民に参観していただけるようにする。 ・広報「北栄」、TCC文字放送・データ放送、町告知放送、チラシ、町のホームページ等。チラシは、自治会長会、民生委員会でも配布し、広く呼びかける。 ○アンケートを実施してまとめ、結果をその後の園や所、学校の取り組みに活かす。		

【最終評価】

事務局	事業実績	同日公開参観日 公開施設：こども園・保育所・小学校・中学校 期日：(春)平成25年6月11日 (秋)平成25年10月11日 周知：町報、ホームページ、チラシ、ケーブル放送、町内放送	
	成果・効果	年間参観者総数は、2,929人で、昨年をさらに上回った。また、参観者から「同日公開参観日は、いつ、どのクラスに行っても良いのでありがたい。」「学校に何う機会が少ないが、今日はとても楽しかった。子どもたちの姿に元気をもらった。」などの声をいただいている。多くの方が参観し、所・園や学校の様子、様々な場面での子どもたちの様子を知る機会になっていると考える。	
	課題	後期は、地域の方の参観者が減少した。より多くの地域の方に所・園や学校での子どもたちをでの様子を知り、見守っていただけるようにする。	
	改善方針	同日公開参観日のチラシに、参観の視点を加える。 地域の人に学んだり、触れ合ったりする活動や学習も入れる。	
外部評価	最終評価	B	【意見等】 1日で町内すべての施設を参加することは難しいので検討ができれば。 ・より参観をしてもらうための行事との抱き合わせ、大人の参観の工夫の検討を。事業は継続してほしい。 ・地域の参観人数が多くなったことは大変いい。

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	8
		担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	自治会等地域での学習活動支援事業		
教育ビジョン	小項目	1 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭や地域	その他共通ビジョン項目 2-1
	具体的な目標	7 地域で育てる教育の充実	
事業の目的・概要	【目的】 「地域子どもたちは地域で育てる」環境づくりの推進と児童生徒が計画的な生活習慣や自ら取り組む学習姿勢の定着を図りながら地域への愛着心や社会性を身につける。 【概要】 自治会や地域の有志が、長期休業中に自治公民館等で地域の児童生徒を対象に実施する学習活動を消耗品等を支給することにより活動の運営を支援する。		
事業の効果	【効果】 ・地域の住民が、「地域子どもたちを育てる」環境づくりが図れる。 ・児童生徒は、規則正しい生活習慣や自ら取り組む学習姿勢の定着が図れる。 ・児童生徒の地域への愛着心や社会性が身に着くとともに将来の地域貢献が期待できる。 ・町は、支援事業の継続・拡大に取り組み、町内全体への波及を効果を目指す。		
具体的な取り組み	・平成25年度：3団体支援（予定） ・支援方法：運営に係る消耗品等の支援⇒上限1万円の現物支給支援（年間1回限り） ・対象：長期休業中（夏休み、冬休み等）に自治会や地域有志が地域の小・中学校児童生徒を対象に行う学習活動 ・募集方法：自治会長・地域座談会・学校PTA・教育懇話会PR、ホームページ・町報掲載		

【最終評価】

事務局	事業実績	・夏休み期間中：4自治会へ支援 ※自治会長、学校PTA、町ホームページで周知 ・冬休み期間中：実施なし ・春休み実施希望者に対し受け入れ対応予定
	成果・効果	・町内63自治会中4自治会を支援し、町内地域における学習活動の取り組みを推進した。 ・児童生徒の計画的な生活習慣の定着、自ら学習に取り組む姿勢、地域への愛着心を図った。 ・地域住民が地域子どもたちを育てる環境づくりの推進を図った。
	課題	・自治会における事業取り組みの継続 ・63自治会への事業の広がり ・実施検討者の事業における取組内容や期間、支援教材費等の不明確化による申請への迷い
	改善方針	●「内容を見直して継続」 ・今年度事業を振り返り、支援事業への要件（内容、期間等）の明確化を図る。 ・支援した自治会への事業継続の仕掛けを図る。
外部評価	最終評価	C 【意見等】 ・広報活動の充実と全自治会への周知が必要。早い者勝ちとならないような配慮が必要。 ・自治会によって子どもの数が違うので、予算内容の見直しが必要。 ・自治会と子ども会の話し合いが必要。

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	9
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	職場体験学習(ワクワク)		
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	1 地域との連携を深め特色ある教育活動の推進	
事業の目的・概要	【目的】 職場体験を通して、働くことの楽しさや厳しさを学ぶ。また、そのことを今後の進路について考えることに役立てる。 【概要】 事業所において、4日または5日間の職場体験実習を行う。		
事業の効果	【効果】 ・体験を通して、働くことの楽しさや厳しさを学ぶことができる。 ・自分の能力や特性を発見・理解することにつながる。 ・社会の一員としての自覚をもち、社会の規律やマナーを学ぶことができる。		
具体的な取り組み	○事前指導 ・目的、心構え ・電話のかけ方 ・日誌、名札等 ○職場体験学習(4日または5日間) 北条中 7/2～7/5 大栄中 6/17～6/21 ○事後指導 ・まとめ		

【最終評価】

事務局	事業実績	職場体験学習を北条中 7/2～7/5(4日間)、大栄中 6/17～6/21(5日間)実施した。事前学習や事後の指導も行った。(目的、心構え、電話のかけ方、日誌や名札等の作成、お礼状の書き方)
	成果・効果	・体験を通して、働くことの楽しさや厳しさを学んだ。 ・自分の能力や特性を発見・理解することにつながった。 ・社会の一員としての自覚をもち、社会の規律やマナーを学んだ。
	課題	・受け入れ事業所を増やしていく必要がある。
	改善方針	・商工会との連携、保護者の協力を得て受け入れ事業所を増やしていく。 ・受け入れ側のメリットをPRしていく。
外部評価	最終評価	C 【意見等】 ・受け入れ側の事業所等のメリットを考える必要がある。 ・職場体験は継続して実施してほしい。 ・貴重な体験なので受け入れ事業所に協力を依頼するしかない。 ・国等の補助事業や事業調査も視野に入れてはどうか。

※ 評価確認事項

★評価の観点

- | |
|---------------|
| ① 継続・単年 |
| ② 対象者、参加者 |
| ③ 参加者の満足度 |
| ④ 予算措置 |
| ⑤ 教育ビジョンへの貢献度 |

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|---------------------|-------------------|
| A = 目標を大幅に達成できた | D = 目標を一部達成できなかった |
| B = 目標をいくらか超えて達成できた | E = ほぼ全く達成できなかった |
| C = 目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	10
		担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	サマースクール(夏休み小学生勉強会)		
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	1 地域との連携を深め特色ある教育活動の推進	
事業の目的・概要	【目的】 小学生が夏休みにおいて、学習習慣を持続させるとともに、講師のアドバイスや指導を受けることで学習内容や学習方法を学び、意欲を持って学習に望めるようにする。 【概要】 小学生の夏休み期間中の勉強会を1日あたり1時間30分、計10日間実施する。		
事業の効果	【効果】 ・学習習慣を持続させる。 ・学習内容や学習方法を学び、意欲を持って学習に望める。 ・地域の人と交流することができる。		
具体的な取り組み	対象：小学校児童 期日：7月24日～26日、7月30日～8月2日、8月6日～8日 計10日間 午前10時～11時30分 場所：北条地区は中央公民館大研修室、大栄地区は図書館研修室・AV室 講師：教職経験者、大学生 内容：各児童が学習教材を準備して学習をすすめ、質問があれば講師に訊く。 講師は、児童の質問に答えたり、様子を見て、適宜、助言や指導をしたりする。		

【最終評価】

事務局	事業実績	・実施日数 9日(10日を予定していたが、8月1日は大雨のため中止) ・指導者11人の内1人は大学生 ・申し込みが、会場の定員をかなり上回ったため、学年ごとに参加日を指定して定員以下の人数で実施
	成果・効果	・学習習慣を持続させることに役立った。 ・学習内容や学習方法を学び、意欲を持って学習に望むことにつながった。 ・地域の人と交流することができた。
	課題	・申込者数が会場の定員をかなり上回った。
	改善方針	・会場を確保し、申込者が全員参加できるようにする。
外部評価	最終評価	B 【意見等】・大幅な参加申し込みがあり、事業の定着がみられるのではないかと。 ・事業を継続してほしい。

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A =目標を大幅に達成できた	D =目標を一部達成できなかった
B =目標をいくらか超えて達成できた	E =ほぼ全く達成できなかった
C =目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	11
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	ゲストティーチャー招聘(地域人材の活用)		
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども	その他共通ビジョン項目 2-2 6-3
	具体的な目標	1 地域との連携を深め特色ある教育活動の推進	
事業の目的・概要	【目的】 地域の人とかかわりあいながら、よりよく生きようとする態度を養う。 【概要】 地域の人材を招いての授業や総合的な学習等を行う。		
事業の効果	【効果】 ・身近な人の生き方に学ぶことができる。 ・地域の一員であるという自覚がうまれる。 ・地域の活動に参加しようという意欲につながる。		
具体的な取り組み	○中学校 ・運動部外部指導者(国10/10・県:1/2事業) 指導者研修1回、謝金:上限10万円(目安:38回分) ・社会人に学ぶ授業の講師 ○小学校 ・クラブ活動の指導 ・ほうじょうっ子ふれあいフェスティバル		

【最終評価】

事務局	事業実績	・中学校の運動部外部指導者による指導 大柴中バレーボール指導者:出産のため辞退(後任なし) ・小学校のゲストティーチャー招聘を実施 ・北条小のほうじょうっ子ふれあいフェスティバルについては、本年度より中止
	成果・効果	・身近な人の生き方に学ぶことができた。 ・地域の一員であるという自覚につながる体験ができた。 ・地域の活動に参加しようという意欲につながる体験ができた。
	課題	北条小のほうじょうっ子ふれあいフェスティバルが大きい事業であったが、本年度より実施しないことになった。日頃の道徳や特別活動にゲストティーチャーを招聘しており、これらの取組を来年度は指標に取り上げる必要がある。
	改善方針	北条小の指標を日頃の道徳や特別活動にゲストティーチャーを招聘することに関係するものにして、状況の把握・評価ができるようにする。
外部評価	最終評価	【意見等】・中学校運動部活動外部指導者と小学校ゲストティーチャーの事業は内容が違うので、予算編成は別で考えた方がいい。
	C	

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A =目標を大幅に達成できた	D =目標を一部達成できなかった
B =目標をいくらか超えて達成できた	E =ほぼ全く達成できなかった
C =目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	12
		担当課名	生涯学習課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	歴史探訪ウオークの実施		
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども	その他共通ビジョン項目 2-9 6-5 6-6
	具体的な目標	4 町の自然や歴史に触れ合えるイベントの開催	
事業の目的・概要	【目的】 町内の史跡・名勝・文化財などを徒歩で訪れ、町の成り立ちの歴史や文化に直接触れることで、「北栄町」への愛着・思い入れをさらに深めてもらう。 【概要】 町内の史跡・名勝・文化財などを徒歩でめぐり、それぞれのポイントで解説をおこなう。		
事業の効果	【効果】 身近な地域の歴史を知ることで「北栄町」への認識を新たにしてもらい、今まで以上に「我が町」の意識と愛着を持ってもらう。「我が町」の意識を高めることで、町の他の分野への参加も見込める。		
具体的な取り組み	身近にある歴史スポット(史跡・名勝など)をめぐるコース設定だが、これまで当たり前に見ていたもの(由良台場・六尾反射炉など)を具体的に取り上げ、目で見て手で触れて心で感じてもらえるようにする。 (検証は出来ないが、帰宅後、夕食や団らんの場で「今日はこんな話が聞けた」という話題になれば理想。) 目標参加人数:20名		

【最終評価】

事務局	事業実績	10月20日(日) てくてくウオーク事業と共催の形で「幕末の郷土探訪ウオーク」として開催。	
	成果・効果	参加者26名。由良台場築造150年記念事業と連動、町内の江戸時代以降の史跡等をめぐるコース設定。 荒天の中、参加者全員が完歩、説明にも耳を傾けてもらえ、築造の意義、誇れる歴史の発見、町への再認識の声が届いた。	
	課題	実際に手で触れて・・・という部分に工夫が必要と感じた。 悪天候にせよ、参加者数はもっと増やしていくことが必要。	
	改善方針	ただ単に耳で聞く説明だけでなく、いろいろなものに触れて実際に感じてもらう工夫を盛り込む。 (町の歴史に実際触れることで、町に対して、親しみ、愛着、そして誇りを持っていただくための工夫)	
外部評価		最終評価	【意見等】・屋外イベントとは言え天候に左右されにくい企画を検討してはどうか。
		C	

※ 評価確認事項

★評価の観点

- | |
|---------------|
| ① 継続・単年 |
| ② 対象者、参加者 |
| ③ 参加者の満足度 |
| ④ 予算措置 |
| ⑤ 教育ビジョンへの貢献度 |

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|--------------------|------------------|
| A =目標を大幅に達成できた | D =目標を一部達成できなかった |
| B =目標をいくらか超えて達成できた | E =ほぼ全く達成できなかった |
| C =目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	13
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	町学校教育研究協議会		
教育ビジョン	小項目	3 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子ども	その他共通ビジョン項目 4-2
	具体的な目標	1 保・幼・小・中の連携の充実	
事業の目的・概要	【目的】 町内こども園・保育所(園)・小学校・中学校が相提携し、幼児、児童、生徒の豊かな人間性と確かな学力を育て、本町教育の充実進展に努め、併せて関係諸団体との緊密な連携を図る。 【概要】 園(所)、小・中学校が連携し、幼児、児童、生徒の豊かな人間性と確かな学力を育てる具体的な活動を推進する。		
事業の効果	【効果】 ・園(所)、小・中学校が連携することが、幼児、児童、生徒の豊かな人間性と確かな学力を育てることにつながる。		
具体的な取り組み	専門部会を組織し、活動を進める。 学習指導部、生徒指導部、人権教育部、特別支援教育部、健康教育部、読書推進部、就学前教育部、学校事務部		

【最終評価】

事務局	事業実績	・4月22日(月)総会 会場 北条小学校 活動方針等協議 ・7月29日(月)全体研修会 講演 講師 小栗正幸氏(宇部フロンティア大学臨床教授) ・各部会の活動を実施 ・理事会 4月5日、1月6日	
	成果・効果	幼児、児童、生徒の豊かな人間性と確かな学力を育てるため、園(所)、小・中学校が連携を図った。	
	課題	特になし	
	改善方針	取組のさらなる充実を図る	
外部評価	最終評価	【意見等】・特になし。	
	C		

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A =目標を大幅に達成できた	D =目標を一部達成できなかった
B =目標をいくらか超えて達成できた	E =ほぼ全く達成できなかった
C =目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

【評価事務事業：当初確認事項】

			整理番号	14
			担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】				
事業名	レインボープラン(大栄小・中・中央育英高校)			
教育ビジョン	小項目	3 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子ども	その他共通ビジョン項目	
	具体的な目標	1 保・幼・小・中の連携の充実		
事業の目的・概要	【目的】 同じ丘に大栄小学校・大栄中学校・鳥取中央育英高等学校があるという立地環境を活かし、小中高等学校が連携する中で、一人ひとりの児童生徒の発達を上級学校へと繋げると共に、進路意識の向上及び教職員の他校種理解を深めることを通して、学校が抱える共通の諸課題(学校不応への対応、教科指導の一貫性、人権教育・特別支援教育の充実等)の解決策を見出す。 【概要】 ・児童生徒の交流 ・教職員の交流			
事業の効果	【効果】 ・児童生徒の進路意識の向上につながる。 ・教職員の他校種理解を深めることができる。			
具体的な取り組み	・児童生徒の交流(吹奏楽、水泳等) ・大栄中学校3年生が鳥取中央育英高校で体験授業を実施 ・互いの授業研究会への参加			

【最終評価】

事務局	事業実績	・小学生 ボードクライミング・水球交流(高校) ・小学校プール開き 高校生の模範水泳 ・中学生の読み聞かせ(小学校) ・授業研究会
	成果・効果	・児童生徒の進路意識の向上につながる体験ができた。 ・教職員の他校種理解を深めることができた。
	課題	特になし
	改善方針	交流の目的を明確にし、取組のさらなる充実を図る。
外部評価	最終評価	B 【意見等】・交流体験することはいいこと。小・中に加え、高等学校に拡げることはいいこと。いい経験となるはず。 ・継続してほしい。

※ 評価確認事項

★評価の観点

- ① 継続・単年
- ② 対象者、参加者
- ③ 参加者の満足度
- ④ 予算措置
- ⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | | | |
|---|-------------------|---|-----------------|
| A | = 目標を大幅に達成できた | D | = 目標を一部達成できなかった |
| B | = 目標をいくらか超えて達成できた | E | = ほぼ全く達成できなかった |
| C | = 目標どおり達成できた | | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	15
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	ドリームプロジェクトX(北条小・中)		
教育ビジョン	小項目	3 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子ども	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	1 保・幼・小・中の連携の充実	
事業の目的・概要	【目的】 9年間を見通した連続性のある小中連携教育の推進 【概要】 学力向上、交流活動、小中の接続の3つのプロジェクトを中心に活動を推進する。		
事業の効果	【効果】 教育目標の一貫性、子どもの理解の一貫性、学習指導の継続性、学習内容の系統性を視点として、独自性と連続性を踏まえた9年間の一貫した教育の推進につながる。		
具体的な取り組み	○プロジェクトまなび(学力向上) ・小中合同授業研究会 ・小中合同教科・領域部会 ○プロジェクトきずな(交流活動) ・交流活動、行事交流 ○プロジェクトくらし(小中の接続) ・ノーメディアチャレンジの実施		

【最終評価】

事務局	事業実績	○プロジェクトまなび(学力向上) ・小中合同授業研究会 ・小中合同教科・領域部会 ○プロジェクトきずな(交流活動) ・交流活動、行事交流 ○プロジェクトくらし(小中の接続) ・ノーメディアチャレンジの実施
	成果・効果	教育目標の一貫性、子どもの理解の一貫性、学習指導の継続性、学習内容の系統性を視点として、独自性と連続性を踏まえた9年間の一貫した教育の推進を図った。
	課題	特になし
	改善方針	取組のさらなる充実を図る。
外部評価	最終評価	C 【意見等】・交流体験することはいいこと。いい経験となるはず。 ・継続してほしい。 ・どういことを伝えるかテーマを決めるプログラムの検討を。

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	16
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	中学校での心の教室相談事業		
教育ビジョン	小項目	3 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子ども	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	3 いじめ・不登校問題に対する学校の危機管理体制の充実	
事業の目的・概要	【目的】 生徒たちの抱えている悩みやストレス等を軽減するため、各中学校に生徒が気軽に相談でき、安心して学校生活を送れる環境整備として「心の教室」を設置する。 【概要】 生徒たちが学校や家庭など内容を問わず抱えている悩みを心の教室相談員（町非常勤職員）が「心の教室」で聞き取り、生徒が安心して学校生活が送れるよう環境整備する。		
事業の効果	【効果】 ・悩み相談の場を設けることで生徒が安心して学校に通学できる環境を整備する。 ・生徒のいじめや家庭環境、学習（高校進学）への取り組みなど内容を問わず悩みを聞き取ること でいじめや不登校などの早期発見・対策につながる。 ・教員との情報共有ができ、教員は早期対応、学級経営に役立てることができる。		
具体的な取り組み	・「心の教室」開設日 【北条中】 毎週 月・木 8:30～12:30 火・金 13:00～17:00 ※スクールカウンセラー：毎週水曜日 【大栄中】 毎週 月・火・水・金 10:00～14:00 ※スクールカウンセラー：毎週水曜日		

【最終評価】

事務局	事業実績	・中学校に各1名配置し、相談活動を実施 ・昼休憩時に生徒が相談室を訪れ、相談員と会話をするなどして過ごす	
	成果・効果	・悩み相談の場を設けることで生徒が安心して学校に通学できる環境を整備した。 ・教員との情報共有ができた。	
	課題	相談回数だけでなく、内容ごとの回数も記録し、活用状況を把握する必要がある。	
	改善方針	本年度より、内容ごとの回数も記録して活用状況を把握に努める。	
外部評価	最終評価	C	【意見等】 ・記録を取り、状況を把握し、次年度へつなげるようなシステムが必要。 ・利用者数の推移以外にも、全体の把握のために悩みの分類の推移も共有してはどうか。

※ 評価確認事項

★評価の観点

- | |
|---------------|
| ① 継続・単年 |
| ② 対象者、参加者 |
| ③ 参加者の満足度 |
| ④ 予算措置 |
| ⑤ 教育ビジョンへの貢献度 |

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|---------------------|-------------------|
| A = 目標を大幅に達成できた | D = 目標を一部達成できなかった |
| B = 目標をいくらか超えて達成できた | E = ほぼ全く達成できなかった |
| C = 目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	17
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	いじめ対策のためのQ-U実施		
教育ビジョン	小項目	3 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子ども	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	3 いじめ・不登校問題に対する学校の危機管理体制の充実	
事業の目的・概要	【目的】 アンケートを実施し、学級経営のための有効な資料を活用して、いじめや不登校などの問題行動の予防と対策に役立てる。 【概要】 アンケート結果を担任だけでなく、学年担当の複数の教員で分析して、学級経営等に役立てる。		
事業の効果	【効果】 ・子どもの学校生活での満足度と意欲、学級集団の状態を把握できる。 ・教員が学級及び児童生徒の状況を把握し、子どもが豊かに育ち・まなぶための環境づくりや児童生徒指導に役立てる。		
具体的な取り組み	・1学期に1回目の調査を実施し、学級集団の状況を把握して指導にあたる。 ・2学期に2回目の調査を実施し、学級集団の状況やその変化を把握して、指導にあたる。 ・研修会を実施し、活用方法について学ぶ。		

【最終評価】

事務局	事業実績	・1学期と2学期にそれぞれ1回実施し、分析を指導に活かした。	
	成果・効果	・子どもの学校生活での満足度と意欲、学級集団の状態を把握できた。 ・教員が学級及び児童生徒の状況を把握し、子どもが豊かに育ち・まなぶための環境づくりや児童生徒指導に役立てることができた。	
	課題	推移の把握を十分に行う必要がある。	
	改善方針	第2回の結果を分析するときに、第1回からの推移も分析し、取組のさらなる充実を図る。	
外部評価		最終評価	【意見等】・要因・質・数のリアルタイムの共有があってもいいのではないかな。
		C	

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	18
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	いじめに関する調査		
教育ビジョン	小項目	3 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子ども	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	3 いじめ・不登校問題に対する学校の危機管理体制の充実	
事業の目的・概要	【目的】 いじめの実態を把握し、今後のいじめの未然防止、早期発見・早期対応等の指導に役立てる。 【概要】 調査方法 ・年2回 ・家に持ち帰って記入(小1、2は除く) ・無記名 ・同じ様式の調査票		
事業の効果	【効果】 いじめの実態を把握することで、今後のいじめの未然防止、早期発見・早期対応等の指導に役立てることができる。		
具体的な取り組み	実施時期:5月下旬、10月下旬 対象:全児童生徒 方法:小学校1、2年 学校で調査用紙に記入(無記名)、提出 小学校3年～中学校3年 調査用紙を持ち帰り、家で記入(無記名)、用紙を封筒に入れて担任に提出 活用:調査結果を全職員で把握し、今後のいじめの未然防止、早期発見・早期対応等を図る。		

【最終評価】

事務局	事業実績	5月と11月に調査を実施し、いじめの早期発見、予防に役立てた。	
	成果・効果	いじめの実態を把握することで、今後のいじめの未然防止、早期発見・早期対応等の指導に役立てた。	
	課題	・無記名の調査なので、記入者から直接、話を聞くことができない。 ・アンケート調査だけでは把握はできない。	
	改善方針	他の方法での実態把握を合わせて実施していく。(観察、教育相談、生活記録ノート)	
外部評価	最終評価	C	【意見等】 アンケート調査だけでは把握できないと考えるので、その他の取り組みの組み合わせが必要。 ・事が実際に起こっているのに、別の対応も考える必要がある。 ・家庭・学校・行政等の事が起こってから対応が必要である。

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

			整理番号	19
【評価事務事業：当初確認事項】			担当課名	教育総務課
事業名	児童生徒交流事業(滋賀県湖南市との交流)			
教育ビジョン	小項目	3 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子ども		その他共通ビジョン項目 2-1
	具体的な目標	3 いじめ・不登校問題に対する学校の危機管理体制の充実		
事業の目的・概要	【目的】 友好交流協定を締結している滋賀県湖南市との学校レベルでの相互交流を「第3回湖南市いじめをなくそうサミット」を通じて行い、児童生徒の豊かな育ち・学びに活かす。また、今後の児童生徒交流事業を促進する。 【概要】 湖南市が主催する「第3回いじめをなくそうサミット」に参加し、ワークショップ-アピール文作成-全体発表を通じて交流する。交流の結果を学校に持ち帰り、校内発表を行うなど情報共有を行う。			
事業の効果	【効果】 ・児童生徒及び教員が、いじめをテーマとした「話し合い-まとめ発表」による交流体験を行い、いじめに向き合うとともに学校内でのいじめ対策活動に活かすことができる。 ・児童生徒は、都市部の児童生徒との交流を通じて社会性の育成ができる。 ・教員は、学校における学習活動や指導に役立てることができる。 ・町は、湖南市との友好交流の幅を広げ、相互連携や子どもたちの育ちに還元できる。			
具体的な取り組み	・実施日：平成25年8月22日(木曜日) 午後、 行程：8月21日(水曜日)～22日(木曜日)1泊2日 ・参加者：北条小 6学年児童3名、教員1名、大栄小 6学年児童3名、教員1名 北条中 3学年生徒2名、教員1名、大栄中 3学年生徒2名、教員1名 教育委員会 職員1名 総勢 15名 ・内容：テーマ「いじめ」 湖南市指導主事講演ーワークショップーアピール文作成ー全体発表ー各学校へ持ち帰り			

【最終評価】

事務局	事業実績	・平成25年8月21日(水)～22日(木)：滋賀県湖南市訪問 ・平成25年8月22日(木)：「第3回湖南市いじめをなくそうサミット」に児童生徒・教員が参加・交流 ・平成25年9月4日(水)：大栄小全校発表、平成25年9月18日(水)北条小全校発表、平成25年9月20日(金)大栄中生徒会企画：いじめをなくそうサミット参加報告会(全校生徒対象意見交換) ・平成25年12月1日(日)北条町じんけんフェスタ2013
	成果・効果	・「いじめ」への認識を深め、「いじめ」をなくするための意見交換、決意・願いをまとめ発表し、湖南市の関係者を含め情報を共有した。また、学校に持ち帰り、全校発表を通じていじめ撲滅の情報共有を図った。 ・参加した町内小・中学校児童生徒・教員の相互交流が図れた。 ・町民対象の「北条町じんけんフェスタ」において、大栄小参加者が活動状況を報告し、町民と情報共有した。
	課題	・交流が「サミット」の分科会内の参加児童と限定的であった。 ・湖南市と町内の児童生徒とが学校教育をテーマに継続して交流していくことが可能かどうか。
	改善方針	●「内容を見直して継続」 ・生涯学習などのテーマを取り入れ児童生徒の交流を継続する。 ・平成27年度以降町独自で「いじめをなくそう」ための取り組む。 ・「リーダー育成」を見据えて事業を展開する。 ・町イベント「じんけんフェスタ」での発表などを通じて、他校児童生徒や町民と情報を共有する。
外部評価		最終評価 【意見等】・成果の還元として他校への情報提供・共有が必要ではないか。 ・じんけんフェスタへの小・中学生の参加が少なく残念であった。 C

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	20																																								
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課																																								
事業名	少人数学級の推進																																										
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育	その他共通ビジョン項目																																								
	具体的な目標	1 学校教育の充実	4-3 4-5																																								
事業の目的・概要	【目的】 児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導を充実させることにより、学校生活や人間関係への円滑な適応、基本的な生活習慣の確立、基礎学力の定着を図る。 【概要】 小・中学校の学級編成を国・県の基準を上回る(一部)町独自の基準で取り組み、小学校1年から中学校3年までの9年間をきめ細かく丁寧な学習指導を行う。																																										
事業の効果	【効果】 少人数学級編成をすることで、児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導を充実させることができる。そのことにより、学校生活や人間関係への円滑な適応、基本的な生活習慣の確立、基礎学力の定着を図ることができる。																																										
具体的な取り組み	・次の基準(町基準)で学級編成を実施する。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>小1</td> <td>小2</td> <td>小3</td> <td>小4</td> <td>小5</td> <td>小6</td> <td>中1</td> <td>中2</td> <td>中3</td> </tr> <tr> <td>国</td> <td>35</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>県基準</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>33</td> <td>35</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>町基準</td> <td></td> <td></td> <td>33</td> <td>33</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ※県基準：小1・小2・中1 県費、その他は200万円協力金 町基準：500万円協力金				小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	国	35	40	40	40	40	40	40	40	40	県基準	30	30	35	35	35	35	33	35	35	町基準			33	33					
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3																																		
国	35	40	40	40	40	40	40	40	40																																		
県基準	30	30	35	35	35	35	33	35	35																																		
町基準			33	33																																							

【最終評価】

事務局	事業実績	北条小 1年 2学級→3学級 3年 2学級→3学級 4年 2学級→3学級 大栄小 3年 2学級→3学級 北条中 3年 2学級→3学級 大栄中 1年 2学級→3学級 2年 2学級→3学級
	成果・効果	少人数学級編成をすることで、児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導を充実させ、学校生活や人間関係への円滑な適応、基本的な生活習慣の確立、基礎学力の定着を図った。
	課題	特になし
	改善方針	
外部評価	最終評価	【意見等】・継続してほしい。 ・定性的な計測も考える必要があるのではないか。
	B	

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	21
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	学びと指導の創造事業(北条小・中)		
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育	その他共通ビジョン項目 3-1
	具体的な目標	1 学校教育の充実	
事業の目的・概要	【目的】 ・児童生徒の学習意欲の向上及び活用する力の向上 ・小中連携を生かした教師の授業力の向上 【概要】 協同学習と小中連携を活かした取り組みを進める。		
事業の効果	【効果】 協同学習と小中連携を活かした取り組みを進めることで、児童生徒の学習意欲の向上、活用する力の向上及び教師の授業力の向上につながる。		
具体的な取り組み	・協同学習の考え方を取り入れ、小集団学習を活用しながら、互いに深め合い高め合う場面を意図的に設定した授業をする。 ・学年初めのNRT、学年末のCRTの活用項目を継続して分析し、取り組みの効果の有無を見る。 ・一人一研究授業を実施するため、全体の研究授業だけではなく学年単位の研究授業を設ける。 ・小中連携の授業を増やす。そのために、例年実施している全体会だけではなく教科部会も実施し、まずは教員同士の交流を深める。(夏休み中に実施)		

【最終評価】

事務局	事業実績	・合同授業研究会や合同教科部会を実施 ・全県への公開授業研究会 10月16日(水)北条中学校	
	成果・効果	協同学習と小中連携を活かした取り組みを進めることで、児童生徒の学習意欲の向上、活用する力の向上及び教師の授業力の向上につながった。	
	課題	特になし	
	改善方針	本事業は県事業であり、平成24・25年度に実施した。次年度は事業として実施しないが、共同学習の取り組みを継続し、児童生徒の学習意欲の向上、活用する力の向上及び教師の授業力の向上につなげていく。	
外部評価	最終評価	C	【意見等】 ・現状と期待(限定評価)、子どもたちの変化、教員の変化が見られたか(自己評価)を評価していく必要がある。 ・教師による生徒の学力評価と生徒自身による学習成果の関連分析も必要ではないか。

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	22
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	ICT教育活動支援員の配置		
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育	その他共通ビジョン項目 4－4
	具体的な目標	1 学校教育の充実	
事業の目的・概要	【目的】 児童生徒の情報活用能力の向上や学習効果の高い情報機器を活用した授業を推進し、児童生徒の学力の向上を図る。また、ホームページの更新など学校の情報提供を行い開かれた学校を推進する。 【概要】 ・学習教材の作成や授業における情報機器の操作補助を行う。 ・学校情報の発信のため、ホームページの更新などを行う。		
事業の効果	【効果】 ・児童生徒の情報活用能力の向上を図る。 ・情報機器を活用した授業を推進し児童生徒の学力の向上を図る。 ・学習教材の作成や情報機器の操作補助を行い教員の負担軽減し、教員の児童生徒の関わりを増加する。 ・ホームページの更新により開かれた学校づくりを推進する。		
具体的な取り組み	・各小・中学校 1名(合計4名)配置 ※ICT教育活動支援員(臨時職員):週5日 7時間45分勤務 ・年間を見通した学習教材の作成補助を行う。 ・情報機器(電子黒板やプロジェクターなど)を活用した授業を推進するため、機器の操作補助や教職員に機器の操作説明を行う。 ・情報機器の点検・改善を随時行う。 ・学校ホームページの更新を行い、対外的な情報公開を行う。		

【最終評価】

事務局	事業実績	・小学校2校、中学校2校 各校1名(合計4名)配置済み ・各授業におけるICT機器を使用した学習教材の作成補助の実施 ・学校内ICT機器の点検・管理及び操作説明・補助の実施 ・学校ホームページの更新作業実施
	成果・効果	・教員の多忙感の解消及びICT機器による視覚等を活用したこと学習への関心を向上を図り、児童生徒の学力の向上に取り組んだ。 ・学校ホームページへ随時更新することにより開かれた学校を推進し、保護者や町民に児童生徒の学校での様子や学校の取り組みを情報共有することができた。
	課題	・人件費に対し、子どもたちの学習への還元や学校運営の取り組み、教員の負担軽減にどれだけの効果があるのか検証する必要がある。 ・H25までは国の事業を活用していたが、H26以降町費での雇用となるため、経費と効果の検証が必要である。
	改善方針	【引き続き継続】 ・年間を通して、ICT機器を活用した教科及び授業の状況を調査把握し、効果の検証を図る。 ・学校ホームページの更新状況を確認するとともに、開かれた学校の推進を図る。 ・ICT機器に精通した者の採用を図る。
外部評価		最終評価 C 【意見等】 ・人件費に対して子どもたちの学習への還元や学校運営の取り組み、教員の負担軽減にどれだけの効果があるか検証が必要である。 ・最近タブレット等を利用した反転学習が注目されているが今後導入を検討してはどうか。

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A =目標を大幅に達成できた	D =目標を一部達成できなかった
B =目標をいくらか超えて達成できた	E =ほぼ全く達成できなかった
C =目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	23
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	大栄小「まなびの教室」の設置		
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	5 個に応じた指導の育成	
事業の目的・概要	【目的】 発達障がいのある児童、またはその疑いのある児童の学習や生活におけるつまずきや困り感を軽減するために、一人一人に合わせた指導を行う。 【概要】 大栄小学校に、通級指導教員を1名置く。 通常は、在籍している学級で学習し、週に1～2回程度「まなびの教室」に出かけて学習する。		
事業の効果	【効果】 自分に合った学び方や生活の仕方、友達とのかかわり方を学ぶことによって、自分に自信が付き、楽しく学校生活を送ることができる。		
具体的な取り組み	通級指導担当教員は、次のことを行う。 ・一人一人の児童にあわせた指導。 ・在籍学級担任と連携。(在籍学級での様子の観察及び在籍学級における配慮への助言)。 ・保護者への支援。 北栄町教育委員会は、通級指導委員会を設置し、通級指導教室の円滑な運営を図るとともに、指導のより一層の充実を図る。 ・入退級の審査 ・事例検討		

【最終評価】

事務局	事業実績	・開設：平成25年6月1日 ・対象：町内小学校の自閉症・情緒障がい・学習障がい等のある(疑い可)児童 ・内容：障がいによる学習・生活の困難改善・克服のため週1、2回程度の指導、保護者支援 ・指導教員1名配置
	成果・効果	一人一人にあわせた指導を行うことによって、子どもたちは「できた」「わかった」喜びを味わい、「こうすればできる」手ごたえをつかむことができつつある。また、通級指導教員が担任と連携することにより、学級での指導・支援に役立てられている。他校通級の児童には、保護者への支援も十分にできた。
	課題	途中入級の児童が増え、教材を作成する時間や教育相談のための時間等の確保が難しくなってきた。さまざまな困り感を持っている子どもたちが落ち着いて学ぶための、机・椅子等備品が不足している。また、一人一人に合わせた教材を作成するために参考となる書籍等が足りない。
	改善方針	年度当初時間割を組むときに、途中入級の児童数を想定し、工夫して組んでいく。通級指導委員会で、通級による指導の必要性や優先順位などをしっかり審議する。必要な備品教材等は予算化する。
外部評価	最終評価	【意見等】・特になし。
	C	

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	24
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	大栄小「ことばの教室」の設置		
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	5 個に応じた指導の育成	
事業の目的・概要	【目的】 言語にかかわる学習や生活におけるつまづきや困り感を軽減するために、一人一人に合わせた指導を行う。 【概要】 通常は、在籍している学級で学習し、週に1～2回程度「ことばの教室」に出かけて学習する。1対1の個別指導が中心。		
事業の効果	【効果】 必要な言葉のトレーニングやコミュニケーションの力を高めるトレーニングを行うことにより、自分に自信が付き、楽しく学校生活を送ることができる。		
具体的な取り組み	通級指導担当教員は、次のことを行う。 ・一人一人の児童にあわせた指導。 ・在籍学級担任と連携。(在籍学級での様子の観察及び在籍学級における配慮への助言)。 ・保護者への支援。 北栄町教育委員会は、通級指導委員会を設置し、通級指導教室の円滑な運営を図るとともに、指導のより一層の充実を図る。 ・入退級の審査 ・事例検討		

【最終評価】

事務局	事業実績	・開設：平成17年度 ・対象：東伯郡内小学校の言葉やコミュニケーションに不安がある児童 ・内容：構音・吃音・言語障がい等による学習・生活の困難改善・克服のため週1、2回程度の指導、保護者支援 ・指導：大栄小に指導教員1名配置
	成果・効果	構音・吃音の児童は、個別指導で舌を動かす方法や正しい発音等を学び、少しずつ改善している。コミュニケーションに課題がある児童は、小集団指導により、友達に思いや考えを伝えることを楽しみ、自信をつけている。
	課題	通級による指導を希望する児童が年々増えてきている。そのため、指導時間、教材準備で精一杯になり、在籍校での通級児童の様子を参観する時間がとれていない。
	改善方針	通級指導委員会で入退級について審議し、入級時に立てた目標が達成された場合等は退級とする。大栄小学校の行事の時を利用して、他校児童の在籍学級での学習を参観し、通級で付けた力が活かされるようにする。
外部評価		最終評価 C 【意見等】・利用可能な時間は有限なので、指導の種類の厳選もしくはスタッフの充実が必要ではないか。

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A =目標を大幅に達成できた	D =目標を一部達成できなかった
B =目標をいくらか超えて達成できた	E =ほぼ全く達成できなかった
C =目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

			整理番号	25
【評価事務事業：当初確認事項】			担当課名	教育総務課
事業名	特別支援教育補佐員の配置			
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育		その他共通ビジョン項目 4-5
	具体的な目標	8 特別支援教育の充実		
事業の目的・概要	【目的】 個別に配慮を要する児童生徒の支援に加え、平成25年度は、命にかかわる児童への学校生活において十分な配慮を行うとともに各児童の特性に合った学習指導を行う。 【概要】 各小学校に2名、各中学校に1名の特別支援教育補佐員を配置し、個別に配慮を要する児童生徒の学校生活における支援を行う。			
事業の効果	【効果】 ・通常学級に在籍する児童生徒を個別に支援することで困り感を解消できる。 ・病気や障がいにより学校生活に個別の配慮が必要な児童に対し個別に支援することで困り感を解消する。 ・各児童生徒の特性にあった学習指導を行い、子どもたちの豊かな育ち・学びの推進を図る。			
具体的な取り組み	・各小学校 2名、各中学校 1名配置 ※特別支援教育補佐員(臨時職員):週5日 7時間45分勤務 ・通常学級に在籍する個別に配慮を要する児童生徒への学習等の支援を行い、困り感の解消をする。 ・通常学級全体の学級経営をよりきめ細かく対応し、各児童生徒の基礎学力の向上を図る。 ・病気や障がいにより個別の支援が必要な児童に対し学校生活の支援をすることで、個々の学習や生活習慣、社会性を習得する。			

【最終評価】

事務局	事業実績	・小学校2校に各2名、中学校2校に各1名 合計6名を配置。 ・北条小:ダウン症1名、心疾患1名、大栄小:重度アレルギー1名、肺疾患1名を中心に学校生活及び学習を支援。 ・小・中学校4校:特別支援学級入級児童生徒及び通常学級に在籍する個別に配慮を要する児童生徒に対し、学校生活・学習の困り感を解消する支援。
	成果・効果	・ダウン症児童の特性に合った学習や生活の支援が実施できた。 ・心・肺疾患、重度アレルギー児童に対し個別な配慮を行うことにより、安全な学習や生活を送ることができた。 ・特別支援学級、通常学校に在籍する配慮を要する児童生徒の学習・生活の支援を行い豊かな育ちに取り組んだ。
	課題	・通常学級に潜在する個別に配慮を要する児童の把握・支援が必要である。
	改善方針	●「継続」 ・障がいや疾病等個別に配慮を要する児童生徒に対しきめ細かな学習・生活を支援を行い、豊かに育ち・学ぶことができる学校教育環境づくりを継続する。
外部評価		最終評価 【意見等】・特になし。 B

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	26
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	生涯学習課
事業名	社会教育講演会事業		
教育ビジョン	小項目	5 人権を尊重する気運が社会に根付き、豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	2 生涯学習の推進	
事業の目的・概要	【目的】生涯学習の推進 【概要】宝くじ文化公演会の開催		
事業の効果	【効果】町民の教養・文化活動への関心を高める。		
具体的な取り組み	・宝くじ文化公演会の開催 日時：10月12日(土曜日) 10:00～ 場所：大栄農村環境改善センター 講師：渡部陽一 氏 演題：世界からのメッセージ ～希望のある明日のために～		

【最終評価】

事務局	事業実績	総席数404席の内、入場者375人
	成果・効果	町民の教養・文化活動への関心を高められた。
	課題	未就学児を連れた人が入場できるようにする。
	改善方針	託児の実施
外部評価	最終評価	【意見等】・整理券の融通がきけばいい。整理券を譲っての対応がしてほしい。
	B	

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	27
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	生涯学習課
事業名	社会教育推進事業(生涯学習出前講座提供事業)		
教育ビジョン	小項目	5 人権を尊重する気運が社会に根付き、豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	2 生涯学習の推進	
事業の目的・概要	【目的】 地域や団体が主体的に学習できる体制を作ること、学習への意欲の向上を図る。 【概要】 生涯学習出前講座の実施		
事業の効果	【効果】 「いつでも・どこでも・だれでも」生涯学習への意欲向上が図れる。 自治会・住民団体等の主体的な活動を支援することで自発的で、活力のある地域づくりにつなぐ。		
具体的な取り組み	年間を通じ、生涯学習出前講座72講座を提示し、提供する。		

【最終評価】

事務局	事業実績	H25. 12. 27現在で36講座を実施した。	
	成果・効果	自治会長会等でのチラシ配布・周知等によりだいぶ定着してきている。現在、1団体実施予定。目標を達成する見込みあり。	
	課題	自治会・団体以外の利用が少ない。	
	改善方針	町報・HP等を活用して、団体以外の方の利用を促す。	
外部評価	最終評価	C	【意見等】 ・他の事業と組み合わせて実施すればいいのではないか。 ・学習者が学びたい内容と行政として身につけてほしい内容とのバランスが必要ではないか。

※ 評価確認事項

★評価の観点	
①	継続・単年
②	対象者、参加者
③	参加者の満足度
④	予算措置
⑤	教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A	=目標を大幅に達成できた
B	=目標をいくらか超えて達成できた
C	=目標どおり達成できた
D	=目標を一部達成できなかった
E	=ほぼ全く達成できなかった

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	28
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	生涯学習課
事業名	町民音楽祭開催		
教育ビジョン	小項目	5 人権を尊重する気運が社会に根付き、豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	2 地域文化とのふれあいを深める教育の推進	
事業の目的・概要	【目的】 音楽に触れる機会を作ると共に町内で音楽(合唱など)活動にがんばっている人たちに発表の場を提供する。 【概要】 町民音楽祭(北栄町コーラスフェスティバル)の開催(11月中・下旬:中学校の文化祭終了後予定)		
事業の効果	【効果】 これまで町として合唱・コーラス等の発表の場が少なく、こうしたイベントを通じて活動の活発化をはかる。		
具体的な取り組み	町民音楽祭の開催 ※11月中・下旬:中学校文化祭終了後(予定) (開催だけでなく、練習場所の提供など。基本的に運営は実行委員会がおこなう。)		

【最終評価】

事務局	事業実績	
	成果・効果	小学生から愛好家団体まで幅広い年齢層の方の参加があった。
	課題	学生の出番が終わると観客が減ってしまった。 実行委員会形式が未定着
	改善方針	最後まで聞いてもらう工夫が必要(順番を変える)。
外部評価		最終評価 【意見等】・特になし。 C

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	29
		担当課名	生涯学習課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	人権の花運動の実施		
教育ビジョン	小項目	5 人権を尊重する気運が社会に根付き、豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	3 人権教育の推進	
事業の目的・概要	【目的】 花を育てることを通して、命の尊さを学び、友達と協力する心、豊かな心、思いやりの心を養う。 【概要】 5月21日(火)、北条小学校、大栄小学校で人権擁護委員が花の苗654株等を贈呈。児童と一緒にプランターへの移植作業を行う。以後、児童が水遣り等の管理を行い栽培する。		
事業の効果	【効果】 人や物を大切にし、相手を思いやる心が育つ		
具体的な取り組み	6種類の花の苗、計654株を北条小学校と大栄小学校に贈呈。 北条小学校は栽培委員会、 大栄小学校は環境ボランティア委員会 が中心となって水遣りや花壇への植え替えなど、花の管理を行う。		

【最終評価】

事務局	事業実績	5月21日、人権擁護委員によって花苗654株や「思いやりの心を育てよう 人権の花運動」と記したプランター等を両小学校に贈呈し、人権擁護委員と児童と一緒にプランターへの移植作業を行った。また、児童や教職員が協力して水遣り等を行い花を育てた。	
	成果・効果	花を育てることを通して、生命を慈しむ心、相手を思いやる優しい心を育むことができ、人権尊重精神の素地形成に効果があった。また、来校者が人権標語入りのプランター等を見ることにより、人権啓発の推進に資するものとなっている。	
	課題	北条小学校は栽培委員会中心、大栄小学校は環境ボランティア委員会が中心となって栽培・管理しているが、その他の児童に対して、事業の趣旨をより理解してもらうための対応も必要。贈呈式以降の人権擁護委員と児童等との関わりが少ない。	
	改善方針	人権擁護委員による校内での人権学習参加を行い、事業趣旨等の説明を行う。(引き続き継続)	
外部評価		最終評価	【意見等】・花の種類を考えてはどうか。
		C	

※ 評価確認事項

★評価の観点

- | |
|---------------|
| ① 継続・単年 |
| ② 対象者、参加者 |
| ③ 参加者の満足度 |
| ④ 予算措置 |
| ⑤ 教育ビジョンへの貢献度 |

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|---------------------|-------------------|
| A = 目標を大幅に達成できた | D = 目標を一部達成できなかった |
| B = 目標をいくらか超えて達成できた | E = ほぼ全く達成できなかった |
| C = 目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	30
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	生涯学習課
事業名	人権教育小地域懇談会の開催		
教育ビジョン	小項目	5 人権を尊重する気運が社会に根付き、豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	3 人権教育の推進	
事業の目的・概要	【目的】 町民の人権意識を高めるとともに、差別や偏見などを自らの問題として捉え、積極的に正していこうと行動できる人を育てる。 【概要】 さまざまな人権問題のなかから、全63自治会が学習テーマを決定し、自主的、主体的な取り組みとして懇談会等を実施する。		
事業の効果	【効果】 人権が尊重され、暮らしやすいまちづくりを推進する。		
具体的な取り組み	さまざまな人権課題や学習方法に対応出来るよう、学習メニュー案を複数提示するとともに、自治会独自の学習テーマにも柔軟に対応して、自治会が主体となって行うことを周知するなかで、自らの問題としてより多くの方に参加していただく。		

【最終評価】

事務局	事業実績	学習メニュー案を九つ設定。話すのが苦手な人に対する手立てとして、ビデオ視聴やミニ講演等のあとの懇談を行わない学習パターンを追加。また、「堅苦しい」などの固定化したイメージを払拭し、さまざまな人権課題に対応した会であることをアピールするため、会の名称を「人権を学ぶ会」に変更。全63自治会で実施した。
	成果・効果	参加者の人権意識の覚醒と高揚を図り、人権が尊重された住みよい地域社会づくりを推進した。参加者アンケートで、「懇談がないことにより気楽に参加できた。」「ビデオを見るだけでも勉強になった」など、好意的な意見が多く寄せられており、参加者が僅かながら増加した一因と考える。
	課題	懇談を行わない学習パターンは、人権意識が深まらない、本来の学習のスタイルではないなどの否定的な意見があり、再度、手法について関係者の意思統一が必要。
	改善方針	しばらくは、参加者を増やすことを目的として、懇談のない学習パターンを設けることを継続し、自然発生的に懇談が始まっても、発言を強制しないことを基本として、臨機応変に対応する。（引き続き継続）
外部評価	最終評価	【意見等】・懇談のない「人権を学ぶ会」として見直し、参加者の負担軽減を図った結果参加者が増加している。 ・学んだことを生活で活かすインセンティブを設けてはどうか。 ・参加者を増やすため自治会に他事業後の開催を依頼してはどうか。

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	31
		担当課名	生涯学習課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	小中学生の人権学習会の開催		
教育ビジョン	小項目	5 人権を尊重する気運が社会に根付き、豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町	その他共通ビジョン項目 3-7
	具体的な目標	3 人権教育の推進	
事業の目的・概要	【目的】 さまざまな人権問題に関わる差別や偏見に気づき、解消する力を育てる。 【概要】 参加を希望する児童・生徒を対象として、学校の人権学習と連動した人権学習を行い、人権に関する知識や認識を広げたり、深めたりして差別を解消する力を育てる。		
事業の効果	【効果】 人権に関する知識や認識が深まり差別を解消する力が育つ。		
具体的な取り組み	町内小中学校単位で実施し、学校教諭が学校の人権学習と連動した人権学習を指導する。 学校を通して参加を希望する児童・生徒を募集する。 会場は、北条小学校が大野児童館、北条中学校が北条文化会館、大栄小学校と大栄中学校が大栄文化センターで開催する。 小学校が年間20回程度、中学校が年間32回程度実施する。		

【最終評価】

事務局	事業実績	大栄小学校児童は10人、大栄中学校生徒は4人、北条小学校児童は6人の参加。北条中学校生徒は参加無し。小学校は20回、中学校は32回実施。
	成果・効果	人権に関する正しい知識や理論を学ぶことにより、差別や偏見に負けず、それを正していくための力を身に付けることができる。また、地域の歴史や現状を学習し、地域に愛着と誇りを持つことができた。
	課題	人権学習に特化し、さらに学習対象者を地区児童・生徒に限定せず、参加を希望するすべての児童・生徒とすることで、広がりのある差別や偏見解消の取り組みとなることを狙ったが、地区外の児童・生徒の参加はなく、地区内児童・生徒の中にも不参加者がでた。参加者を増やす取り組みが必要。
	改善方針	地区内はもとより、地区外児童・生徒及びその保護者に対して、地域における人権学習の意義について事前に十分な説明を行い、参加の動機付けを図る。(引き続き継続)
外部評価		最終評価【意見等】・自分自身の偏見等を気付かせる仕組みが必要ではないか。 C

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A =目標を大幅に達成できた	D =目標を一部達成できなかった
B =目標をいくらか超えて達成できた	E =ほぼ全く達成できなかった
C =目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	32
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	生涯学習課
事業名	人権教育講演会の開催		
教育ビジョン	小項目	5 人権を尊重する気運が社会に根付き、豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	4 人権尊重まちづくりの推進	
事業の目的・概要	【目的】 人権に関する講演会を開催し、人権課題に対する理解を深め、人権意識の高揚を図る。 【概要】 外部講師により人権に関する講演会を開催する。		
事業の効果	【効果】 さまざまな人権課題に対する認識が深まり、人権意識の高揚が図れる。		
具体的な取り組み	7月18日(木)午後7時30分から、大栄農村環境改善センターで、講師に教育サポーターの仲島正教さんを招き、「あーよかったな あなたがいて 〜つながりと感動〜」という演題で、幼児期から思春期にかけての子育てを通した人権教育を内容とした講演会を開催。		

【最終評価】

事務局	事業実績	7月18日(木)午後7時30分から、大栄農村環境改善センターで、講師に教育サポーターの仲島正教さんを招き、「あーよかったな あなたがいて 〜つながりと感動〜」という演題で、幼児期から思春期にかけての子育てを通した人権教育を内容とした講演会を開催。
	成果・効果	参加者の満足度が極めて高く、子どもの人権を考えることを通して人権全般について認識が高まった。
	課題	参加者数が目標400人に対して約61%の247人とどまった。PTA関係者には多く参加していただいたが、一般参加者をさらに増やす必要がある。
	改善方針	事業所や各種団体等に対して直接周知や参加依頼を行う。(引き続き実施)
外部評価		最終評価 【意見等】・特になし C

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A =目標を大幅に達成できた	D =目標を一部達成できなかった
B =目標をいくらか超えて達成できた	E =ほぼ全く達成できなかった
C =目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	33
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	生涯学習課
事業名	人権教育事業所研修の実施		
教育ビジョン	小項目	5 人権を尊重する気運が社会に根付き、豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	4 人権尊重まちづくりの推進	
事業の目的・概要	【目的】 事業所経営者や従業員の方で人権教育講演会や懇談会等に参加しにくい方へ人権問題に関心を持っていただくため、事業所の自主的な実施の依頼や、こちらから講師として出向き研修を実施する。 【概要】 事業所に自主的に人権研修を実施していただくよう要請し、学習内容の助言等を行ったり事業所に出向いて研修を実施する。		
事業の効果	【効果】 人権研修機会が増え、より多くの人に入権研修を行っていただくことにより、人権尊重のまちづくりが一層推進できる。		
具体的な取り組み	事業所に対し、事業所経営者や従業員を対象とした人権研修の実施を依頼し、学習内容や学習教材のアドバイスをしたり、講師として指導を行う。		

【最終評価】

事務局	事業実績	人権教育推進員が主になって、各事業所が必要とする研修課題に関する教材等の助言や講師として参加。16事業所、延べ700人(見込み)の参加。
	成果・効果	人権研修機会や教材等の提供を行い、北栄町内事業所(職員)に対する人権意識高揚を図った。
	課題	町内大手や中堅事業所は例年実施しているところが多いが、中小事業所は開催が進んでいない。
	改善方針	中小事業所に対して、文書等により開催の呼びかけを行ってみる。また、独自実施が困難な事業所に対しては、県・町等が行う講演会等の案内を行い職員個々での参加を促していただく。(引き続き継続)
外部評価	最終評価	【意見等】・事業所として活動を促進させるインセンティブもさらに設けてはどうか。 ・ぜひ継続してほしい事業である。

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	34
		担当課名	生涯学習課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	人権教育推進指導員、地区推進員等の研修		
教育ビジョン	小項目	5 人権を尊重する気運が社会に根付き、豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	5 関係諸機関、団体との連携及び指導者の育成	
事業の目的・概要	【目的】 町又は自治会における人権教育の推進役としてスキルアップを図る。 【概要】 研修会の開催や資料の提供。		
事業の効果	【効果】 推進指導員においては、小地域懇談会等での適切な指導や助言ができ、地区推進員においては、研修テーマや研修方法について主体的に決定し、運営することができる。		
具体的な取り組み	人権教育推進指導員は、人権教育小地域懇談会の前に会議を2回開催し、事前研修を行うとともに、小地域懇談会の全日程終了後、総括会議を開き、改善点等について検討する。 人権教育地区推進員も、小地域懇談会前に2回の会議を開催し、実施に当たっての留意事項等について把握をしていただく。また、2月頃に外部講師による研修会を開催する。		

【最終評価】

事務局	事業実績	「人権を学ぶ会」の開催に向けて人権教育推進指導員会議を3回、人権教育地区推進員会議を2回開催した。12月に4回目の推進指導員会議、2月に3回目の地区推進員会議(研修会)を開催。
	成果・効果	個々の人権に関する問題意識を高めていった。特に、3回目の推進指導員会議では、「北栄町人権を尊重するまちづくり推進計画」について理解を深め、町民に対する人権啓発推進を図った。
	課題	人権教育地区推進員は、毎年半数以上が新任者であり、多くの自治会では自主的な人権学習の実施につながっていない。また、人権教育推進指導員が減り、一人当たり自治会訪問回数が増えるなど、負担感が高くなっている。
	改善方針	人権教育地区推進員が真の「推進員」となるよう、地区推進員研修会で、役割認識を高める内容の研修を行う。また、推進指導員の確保に向けて、有識者や各種関係団体等に対して要請を行っていく。(引き続き継続)
外部評価	最終評価	【意見等】・地区推進員の参加者が減少し少なくなっている。
	C	

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	35
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	生涯学習課
事業名	訪問型ニュースポーツ体験事業		
教育ビジョン	小項目	6 学習やスポーツに積極的に参加し、文化や芸術に親しみ、心身ともに健康で、自らの夢を実現させる人があふれる町	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	6 地域住民の健康増進	
事業の目的・概要	【目的】 従来の「来場型」事業に参加するまでの積極性はなくても、「身近な場所で気軽にできるなら、やってみよう」という参加者層を取り込むことにより、気軽に参加できる生涯スポーツを推進する。 【概要】 自治会公民館など参加者の希望する身近な場所に町スポーツ推進委員が訪問し、参加者の希望に応じたニュースポーツ種目を指導する。		
事業の効果	【効果】 気軽にスポーツに親しむ機会を提供し、新たな事業対象者を取り込むことにより、生涯スポーツ人口の裾野を広げていく。		
具体的な取り組み	小学校親子会、自治会のいきいきサロンなどを対象とし、町スポーツ推進委員がニュースポーツ、体操、レクリエーションなどの体験・指導を行う。 平成24年度実績、16回。		

【最終評価】

事務局	事業実績	小学校親子会、自治会等の求めに応じてスポーツ推進委員を派遣し、ニュースポーツの指導普及に努めた。
	成果・効果	住民に身近な機会、場所でニュースポーツを体験していただくことができた。 スポーツ推進委員の活動が住民に認知された。 自治会運動会、生き生きサロンでの利用が広がった。
	課題	平日の開催や、指導依頼が集中する時期の場合、訪問する委員の確保が難しい。
	改善方針	派遣が特定の委員に偏らないよう、委員相互の協力態勢の強化に努める。
外部評価		最終評価 C 【意見等】・幅広い年代への対応で室内競技などの選択肢が用意されている。

※ 評価確認事項

★評価の観点

- | |
|---------------|
| ① 継続・単年 |
| ② 対象者、参加者 |
| ③ 参加者の満足度 |
| ④ 予算措置 |
| ⑤ 教育ビジョンへの貢献度 |

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|---------------------|-------------------|
| A = 目標を大幅に達成できた | D = 目標を一部達成できなかった |
| B = 目標をいくらか超えて達成できた | E = ほぼ全く達成できなかった |
| C = 目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	36
		担当課名	生涯学習課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	ウォーキングのまち北栄町推進事業		
教育ビジョン	小項目	6 学習やスポーツに積極的に参加し、文化や芸術に親しみ、心身ともに健康で、自らの夢を実現させる人があふれる町	その他共通ビジョン項目 2-4 6-5
	具体的な目標	6 地域住民の健康増進	
事業の目的・概要	【目的】 年齢、体力にかかわらず気軽に取り組み、有酸素運動で心肺機能、体を鍛えられるウォーキングにより運動の裾野を拡大する。 【概要】 北栄町の恵まれた自然環境、文化遺産をテーマに年間を通じてウォーキング大会を実施する。		
事業の効果	【効果】 ウォーキングの推進により、日頃の運動不足を解消し基礎体力をつけ、肥満や生活習慣病を防ぐ。		
具体的な取り組み	年4回、テーマに沿ったコースを設定して実施。 1 日本海日の出ウォーク(日の出を見ながら海岸沿いを歩く。) 2 歩いて見て飲んでわくわくウォーク(北条ワイン貯蔵庫の見学など) 3 国史跡由良台場築造150年事業協賛 幕末の歴史探訪ウォーク(由良台場、史跡の見学など) 4 第1回ほくえいサザンクロスウォーク(東西約5キロと南北約18キロの2コースを設定)		

【最終評価】

事務局	事業実績	当初計画の通り、年4回実施 第1回 7月14日実施 日本海日の出ウォーク(座禅体験付き) 参加者数28人 第2回 9月15日実施 歩いて見て飲んでわくわくウォーク(北条ワイン試飲付き) 参加者数23人 第3回 10月20日実施 幕末の郷土探訪ウォーク (国史跡由良台場築造150年事業協賛) 参加者数26人
	成果・効果	北栄町の恵まれた自然環境、文化遺産をテーマに年間を通じてウォーキング大会を実施し、ウォーキングによるまちづくりを推進した。
	課題	町関係団体の実施する他のウォーキング大会との内容的な重複が見られる。困難な部分もあるが、他の大きな事業と開催期日が重なったり、連日となることがある。
	改善方針	次年度は、町関係団体の実施する他のウォーキング大会との調整を行い、同時開催による事業の一本化を図り、効果的な事業運営を図る。
外部評価		最終評価 C 【意見等】・年間を通して利用できるように設定してはどうか。 ・他のイベントにも共通するが複数のイベントが重なるのを改善した方がいい。

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A	= 目標を大幅に達成できた	D	= 目標を一部達成できなかった
B	= 目標をいくらか超えて達成できた	E	= ほぼ全く達成できなかった
C	= 目標どおり達成できた		

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	37
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	生涯学習課
事業名	北栄ゆら由良 川くだり		
教育ビジョン	小項目	6 学習やスポーツに積極的に参加し、文化や芸術に親しみ、心身ともに健康で、自らの夢を実現させる人があふれる町	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	7 公民館活動の推進	
事業の目的・概要	【目的】 名探偵コナンにあえる町北栄町と由良川の素晴らしさ、地域活動の大切さを身近に感じる 【概要】 人と人との繋がりとふれあいを深めるとともに地域の活性化を促進する。		
事業の効果	【効果】 河川環境保護・地域の仲間づくりによる地域活性化の促進する。		
具体的な取り組み	平成元年度に旧大栄町30周年記念事業として開催。平成15年に15回大会で幕を閉じる。平成18年度に北栄町事業として再開し、平成20年度に実行委員会を組織し、町と教育委員会で共催。イカダ作り、大会参加、オールと漕ぎ、ともに汗を流すことにより、人間関係が深まり、地域あるいは職場に活力が生まれる。		

【最終評価】

事務局	事業実績	イカダの部参加チーム数が昨年15チームから22チームと増加した。
	成果・効果	実行委員会で運営を進める中、アンケート・意見交換会の内容を事業に反映させ、参加しやすいよう改善していった。その結果、参加増となった。
	課題	①参加数増になったものの、微増である。 ②参加への経費負担への配慮として、参加賞及び各賞のあり方を変更したが、参加数が増えた場合対応できるか。(本年度スポンサー費135,000円(昨年度比較35,000円増)) ③イカダ作成への経費負担、労力負担が参加において大きな課題となっている。 ④実行委員会が本来の動きになっていないため、事務局中心の運営になっている。 ⑤一部の盛り上がりとなり、町全体のイベントとなっていない
	改善方針	イカダ製作に多額の費用が掛かることから、参加チーム数を増やすことは困難。
外部評価	最終評価	【意見等】・諸条件によって大きく実施方法が変わっている。由良川の素晴らしさ、水の良さ、水辺で遊ぶ楽しさ、時期の検討、イカダ制作の負担の検討が必要。アンケートを実施しては。 ・発想を大きく転換する時期となっているのではないか。
	C	

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	38
		担当課名	生涯学習課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	図書館まつりの開催		
教育ビジョン	小項目	6 学習やスポーツに積極的に参加し、文化や芸術に親しみ、心身ともに健康で、自らの夢を実現させる人があふれる町	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	8 図書館活動の推進	
事業の目的・概要	【目的】 文字・活字文化の日、古典の日、文化の日などを中心に「図書館まつり」を開催し、町民に読書の大切さ、図書館の楽しさを発信する。開館20周年記念事業の一環として開催する。 【概要】 講演会、各講座、子ども向けの催し、お薦めの本の展示、ビデオ鑑賞会、ブックリサイクルなど多数の内容を提供し、町民の参加型で開催する。		
事業の効果	【効果】 ・目標—読書活動推進のため、図書館活動を広く町民に周知する事業に取り組み、来館を促す。 ・効果—多彩な催しを提供することで、図書館を利用したことがない人が来館するきっかけとなったり、図書館活動を知っていただける良い機会となっており、以後利用につながる人が多い。		
具体的な取り組み	期間中は講座や子ども向けの催しなど総合的にを行い、来館を促す。 特別講座「源氏物語」「福本和夫を語る」「郷土史入門」については、土日に開催し、各講座25名程度の参加者を目標とする。また、子ども向けの催し（絵本の読みきかせや工作教室など）についても、25名程度の参加者を目標とする。平日はシネマ上映を予定。各回とも20名程度の参加者を目標とする。なお、期間中はお薦めの本の展示やブックリサイクルを行う。		

【最終評価】

事務局	事業実績	図書館開館20周年を記念し、初日のオープニングセレモニーでは、「世界ミステリー文庫」開設とボランティア表彰、20歳の方へのプレゼントのPRなどを行い、期間中はブックリサイクル、各種講座、児童向けのイベントなどを盛大に開催。たくさんの方にご来館いただき、期間中の入館者延総数は2,033人（昨年は2,455人）。
	成果・効果	多彩な催しを提供することで、図書館を利用したことがない人が来館するきっかけとなったり、図書館活動を知っていただける良い機会となっており、以後の利用につながる。
	課題	文字・活字文化の日、古典の日、読書週間期間中を考慮に入れての実施にした。しかし、実施期間が長い感があるので、来年度は短縮する方向にしてはと考える。
	改善方針	来年度は短期間集中型で実施したい。
外部評価	最終評価	【意見等】・特になし。
	C	

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	39
		担当課名	生涯学習課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	開館20周年記念事業(図書館コンサート)の開催		
教育ビジョン	小項目	6 学習やスポーツに積極的に参加し、文化や芸術に親しみ、心身ともに健康で、自らの夢を実現させる人があふれる町	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	8 図書館活動の推進	
事業の目的・概要	【目的】 広い空間と高い天井の館内で、赤ちゃんから高齢者まで幅広い方を対象に開館20周年を記念し、図書館コンサートを年3回開催する。この取り組みにより、利用促進と図書館活動事業の周知を図る。 【概要】 大人から子どもまで広く親しまれている「童謡・唱歌」コンサートを開催し、参加したすべての人たちと共に時間を共有し、日本の芸術に触れる。		
事業の効果	【効果】 効果－図書館事業のみに止まらず、生涯学習の中の芸術的な分野を提供することで、図書館利用の促進、資料の活用に期待できる。		
具体的な取り組み	・1回目－「図書館トーク&ギターコンサート」(大山町 門脇さんを予定)。 ・2回目－町内で活躍している「童謡・唱歌を歌う会」のメンバーによる「童謡・唱歌」コンサート。10～15曲程度を予定し、その中には参加者と一緒に歌う曲も盛り込んでもらう。曲目は未定。童謡・唱歌が誕生した経過等も語ってもらう。館内には「童謡・唱歌」に関する本やその他関連資料を展示し、貸出に供する。 ・3回目－鳥取中央育英高校音楽部による「クリスマスコンサート」。好評につき、恒例行事として数年前から継続。クリスマス曲を中心に、歌や合奏、ハンドベルなどを披露。		

【最終評価】

事務局	事業実績	3回開催 ・1回目－「ギターコンサート」(大山町 門脇さん) ・2回目－「童謡・唱歌を歌うコンサート」(童謡・唱歌を歌う会) ・3回目－「クリスマスコンサート」(鳥取中央育英高校音楽部)
	成果・効果	生涯学習の中の芸術的な分野を提供することで、新たな図書館利用者の掘り起こしと資料の活用につながる。(各コンサートの関連本の展示など)
	課題	生の芸術に触れる絶好の機会なので、様々な器楽表現を提供する機会としたい。
	改善方針	次年度も3回程度開催予定。参加呼びかけ、PRを徹底し、より多くの参加者を募りたい。
外部評価	最終評価	【意見等】・図書館が力を入れている蔵書とコンサートのコラボしたプログラムがいいのではないかな。
	C	

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	40
		担当課名	生涯学習課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	土曜講座		
教育ビジョン	小項目	6 学習やスポーツに積極的に参加し、文化や芸術に親しみ、心身ともに健康で、自らの夢を実現させる人があふれる町	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	8 図書館活動の推進	
事業の目的・概要	【目的】「源氏物語を読む」「郷土史入門」講座を定期的を開催することにより、図書館資料の活用を促進し、読書活動の推進、生涯学習に資する。 【概要】「源氏物語を読む」ー図書館資料を活用しながら、逐語訳で読んでいく。 「郷土史入門」ーテーマにそって講座を開設。		
事業の効果	【効果】・目標ー読書活動推進のため、図書館活動を広く町民に周知する事業に取り組み、来館を促す。 ・効果ー自ら学ぶ機会を提供し開催することで、参加者の個人学習の意欲をそそり、豊かな人生を育むことで、図書館が生涯学習の拠点となる。また、図書館利用の促進につながる。		
具体的な取り組み	・「源氏物語を読む」…1000年という長い歴史を経て今もお読み継がれている「源氏物語」の時代背景、日本の伝統文化などを講師の説明を交えながら講読する。今年度は第5巻「若紫」。毎月第2・4土曜日に開催。 ・「郷土史入門」…①郷土史概説、②日本の文化、日本の歴史、地域史、風土記、社会制度、時代背景など③自然、地理、産業などの内容について、講座を開設する。今年度は年8回開催予定。関連資料の展示		

【最終評価】

事務局	事業実績	・源氏物語-毎月第2・4(土)に開催。3月まで継続中。 ・郷土史入門-9月から毎月第3土曜日に開催。3月まで継続中。
	成果・効果	講座を開催することで、関連した本の貸出・閲覧等につながっている。また、他の分野の本の貸出にもつながっている。
	課題	源氏物語講座は平成21年からの開講で、今年で5年目。事務局が運営を行ってきたが、徐々に参加者の自主的な運営(参加受付、会場準備、片付けなど)に取り組むことが必要。 郷土史入門講座は平成24年からの開講で、2年目。
	改善方針	引き続き継続。
外部評価		最終評価 【意見等】・若年層へ広げる工夫が必要である。 C

※ 評価確認事項

★評価の観点	
①	継続・単年
②	対象者、参加者
③	参加者の満足度
④	予算措置
⑤	教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A	=目標を大幅に達成できた
B	=目標をいくらか超えて達成できた
C	=目標どおり達成できた
D	=目標を一部達成できなかった
E	=ほぼ全く達成できなかった

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	41
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	生涯学習課
事業名	図書館情報システムの活用		
教育ビジョン	小項目	6 学習やスポーツに積極的に参加し、文化や芸術に親しみ、心身ともに健康で、自らの夢を実現させる人があふれる町	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	8 図書館活動の推進	
事業の目的・概要	【目的】 図書館と北条分室、町内小・中学校の図書室とのネットワークの更なる充実を図ると共に、町民の求める資料の迅速な提供と、サービス向上に努める。 【概要】 ・学校側が求める資料をシステム上で確認し、学校間相互貸借の円滑な運用を図る。 ・町民求める資料の検索、予約、県内外からの相互貸借等、システムを活用し提供する。		
事業の効果	【効果】 ・学校図書室の求める資料を提供し、学校支援を図る。 ・町民の求める資料の検索、予約、購入、県内外からの相互貸借など、システムを十分活用して、迅速な提供を図る。ホームページから資料の有無、図書館行事、利用状況などを確認できる。		
具体的な取り組み	・学校から町立図書館にシステムを活用して資料を依頼すると、町立図書館に相互貸借依頼が入る。町立図書館は資料を揃え、準備でき次第システム上でお知らせする。学校図書館司書が図書館へ来館し、資料を手渡す。あるいはシャトル便で送る。 ・システムによるスムーズな貸出返却作業、当館の資料検索並びに県内外の資料検索、予約・リクエストの受入など、全ての面で活用。		

【最終評価】

事務局	事業実績	図書館と北条分室、町内小・中学校の図書室とのネットワークの更なる充実を図ると共に、町民の求める資料の迅速な提供と、サービス向上に努めた。
	成果・効果	・学校図書室の求める資料を提供し、学校支援を図る。 ・町民の求める資料の検索・予約・購入・県内外からの相互貸借など、システムを活用して、迅速な提供を図る。
	課題	図書館システムが更新時期にきている。保守も26年度で終了となるため、それに向けて予算化が必要。(バージョンが古くなり、貸出処理などを行っている画面がフリーズしたりするので、利用者に迷惑がかかってしまうことがある)
	改善方針	貸出冊数増加に向けて、来館を促すような特集、展示等を考え、利用促進につなげたい。
外部評価	最終評価	【意見等】 ・情報集積の場としてさらなる情報収集活動に取り組んではどうか。 ・電子書籍・デジタル教科書も普及し始めているので、図書館も事前対応を始めてはどうか。著作権放棄や放置されている場合に買換えより安い場合があるがどうか。

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	42
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	生涯学習課
事業名	ビデオ鑑賞会の開催		
教育ビジョン	小項目	6 学習やスポーツに積極的に参加し、文化や芸術に親しみ、心身ともに健康で、自らの夢を実現させる人があふれる町	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	8 図書館活動の推進	
事業の目的・概要	【目的】 名画に触れることで心を潤し、感動を共有する機会を提供する。また、名作本に関連した映画を上映することで、図書館資料と結びつけ、利用促進を図る。 【概要】 子ども向け－毎月最終土曜日に上映。今年度は年間を通して「名探偵コナン」を上映する。大人向け－毎週日曜日に上映。今年度は「家族」をテーマに上映する。		
事業の効果	【効果】 ・上映することで、その映画に関連のある図書を求める利用者がいる。利用に結びつく。 ・町民の教養、文化芸術への関心を高める。		
具体的な取り組み	子ども向け－毎月最終土曜日午後13:30から上映。 大人向け－毎週日曜日午後13:30から上映。 町報、町放送、ホームページで周知するとともに、毎回上映の際には館内放送でお知らせし、PRにつとめる。		

【最終評価】

事務局	事業実績	名画に触れることで心を潤し、感動を共有する機会を提供できた。また、名作本に関連した映画を上映することで、図書館資料と結びつけ、利用促進を図った。
	成果・効果	・上映することで、その映画に関連のある図書の貸出や問い合わせ等があり、利用に結びついている。 ・町民の教養、文化芸術への関心を高める。
	課題	大人向けはテーマを決めて毎週日曜日に上映。参加者は定着しつつあるが、子ども向けの参加者が少ないので、PRを徹底することが必要。
	改善方針	由良駅の愛称が「コナン駅」となったことにちなみ、図書館に立ち寄った観光客でも鑑賞できるよう「名探偵コナン」作品を上映する。上映回数や時間等は今後検討していく。
外部評価		最終評価 【意見等】・特になし。 C

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。